

# 小山市経済動向実態調査

(令和3年度最終報告書)

令和4年3月

小山市産業観光部商業観光課委託

白鷗大学ビジネス開発研究所

# 小山市経済動向実態調査

(令和3年度最終報告書)

## 目次

要旨	1
1. 調査の目的	3
2. 調査対象・調査内容	3
2.1. 調査対象	3
2.2. 調査内容	6
3. 調査結果	7
3.1. 全般的な小山市の景気	7
3.2. 小山市における業界の景気	13
3.3. 昨今の社会・経済情勢に関する質問	27
4. 小山市経済動向ヒアリング調査	32
5. まとめ	41
(参考資料)	43
i. 小山市景気動向アンケート調査票(令和3年度第2回)	43
ii. 小山市景気動向アンケート調査(令和3年度第2回)の回答一覧	48
iii. 小山市景気動向アンケート調査(時系列データ)	70

### 小山市経済動向実態調査プロジェクトメンバー

白鷗大学経営学部准教授・ビジネス開発研究所運営委員	西谷 勢至子
白鷗大学経営学部講師・ビジネス開発研究所運営委員	八尾 政行
白鷗大学総合研究所担当職員	櫻庭 律子
(協力)白鷗大学経営学部教授・ビジネス開発研究所所長	小笠原 伸

# 小山市経済動向実態調査

(令和 3 年度最終報告書)

令和 4 年 3 月

白鷗大学ビジネス開発研究所

白鷗大学ビジネス開発研究所では、小山市産業観光部商業観光課からの委託を受けて小山市の消費面を中心とした経済動向を把握するため、平成 14 年度以降、小山市経済動向実態調査を実施している。令和 3 年度小山市経済動向実態調査では、小山市景気動向アンケート調査(6 月と 12 月)とヒアリング調査(2 月)を実施した。本報告書は令和 3 年度小山市景気動向アンケート調査(第 2 回)の調査結果およびヒアリング調査をまとめた令和 3 年度小山市経済動向実態調査の最終報告書である。

## 要旨

令和 3 年 11 月から 12 月にかけて実施した「小山市景気動向アンケート調査(令和 3 年度第 2 回)」の結果をみると、令和 3 年下半期(7~12 月期)の小山市の全般的な景況感は、前回調査(令和 3 年上半期(1~6 月期)、前々回調査(令和 2 年下半期(7~12 月期))から「どちらともいえない」の割合が大きく上昇し、「やや悪い」の割合が大きく下落した。全体的に景況感は回復傾向にあることが景気動向指数(DI)からも観察されるが、いまだに 50%を下回っており、依然として厳しい景況感の表れとなった。その理由としては、「お客様や取引先の様子」、「小山市の人出の状況」、「周辺地域の様子」といったものが上位に挙げられていたが、それらは令和 2 年の初頭から続く、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行が継続して影響を与えているためであると考えられる。また、小山市の景気見通しに関して、前回の調査と比べ、「やや良くなる」の割合が上昇し、「変わらない」、「やや悪くなる」の割合が下落し、DI でみると 64.9%と調査開始以来最高の水準となった。今回のアンケート調査を実施した時期は、ワクチン接種が進み、感染者数が大きく減少していたため、景気回復を見込む予想が反映されたものであると考えられる一方で、物価上昇を懸念する意見も見られた。

業界の小山市での売上金額についての回答についてみると、令和 3 年下半期(7~12 月期)は「変わらない」の割合が上昇し、「やや減少した」の割合が下落した。DI でみると 44.2%と前回(44.0%)とほぼ変わらない水準であり、50%には至っていない。売上見通しについては、「やや増加する」の割合が上昇し、「変わらない」の割合が下落した。DI でみると 57.1%と前回(52.8%)、前々回(38.4%)から上昇が継続しており、調査開始以来最高の水準となった。これらの理由についても、感染者数の減少に伴い、社会活動が活発化することへの期待が挙げられていた。

販売価格見通しについて、令和 4 年上半期(1~6 月期)は令和 3 年下半期(7~12 月期)と比べ、「やや上昇する」の割合が大きく上昇した。DI でみると 60.8%と、前回(50.0%)、前々回(43.6%)から上昇傾向にあり、平成 29 年下半期(7~12 月期)の調査(62.2%)に次いで、調査開始以来 2 番目に高い水準となった。

雇用見通しについては、令和4年上半期(1～6月期)は令和3年下半期(7～12月期)と比べ、「不足する」、「横ばい」の割合が上昇し、「やや過剰となる」の割合が下落した。DIで見ると、前回調査から上昇し2期連続で50%を上回った。資金繰りの状況に関して、令和3年下半期(7～12月期)は、「やや改善した」の割合が上昇し、「どちらともいえない」の割合が下落した。DIで見ると、令和元年上半期(1～6月期)調査以来50%を上回った。資金繰りの状況についての回答の理由についてみると、特に、「仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化」(38.5%)が、前回調査から大きく割合が上昇していた。賃金等の状況について、前回調査と比べ、「ボーナスの増額」、「ボーナス以外の手当の増額」の割合が上昇する一方で、「定期給与の引下げ」の割合が上昇し、「ボーナスの実施」、「定期昇給を実施」の割合が下落するなど、企業により対応が分かれる結果となった。

今回のアンケート調査では、前回調査に引き続き新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)に関する追加の質問を行った。この質問では、コロナ以前とアンケート対象期間の状況の比較を、供給面、営業・勤務形態等、需要面に分けてたずねた。その結果をみると、供給面では依然としてコロナ禍の影響を受けているものの、営業・勤務形態等、需要面については、「コロナ禍前の営業時間に戻った」の割合が上昇し、「コロナ禍前に比べ需要全体が減少した」の割合が下落するなど、部分的な回復傾向も見られた。

ヒアリング調査(聞き取り調査)は、例年、白鷗大学ビジネス開発研究所にて対面で行ってきたが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、令和4年2月に書面にて行った。その結果を見ると、アンケート調査の結果と比べ、コロナ禍の負の側面がより強調されていることが見受けられた。これは、今回のアンケート調査が、感染症流行が比較的収束傾向にあった11～12月に実施されたのに対し、ヒアリング調査は、年始から感染症流行が再拡大し、栃木県内でもまん延防止等重点措置が適用されていた時期であることが、アンケート調査とヒアリング調査の結果に影響を与えたものと考えられる。

以上のように、令和3年下半期(7～12月)の小山市の景況感に関して、依然として、多くの企業・店舗が新型コロナウイルス感染症の流行により経済的に負の影響を受けてはいるものの、回復傾向がみられた。景気の先行きについては、アンケート調査が、感染症流行が比較的収束傾向にあった時期に行われたことに留意する必要があるものの、景気見通しについてのDIが本調査開始以来最高の水準を記録するなど、見通しが明るいものとなった。一方で、感染症流行期に行われたヒアリング調査の結果を見ると、一転して厳しい見通しとなった。これらの結果からも、今後も新型コロナウイルス感染症の流行状況により、景況感が左右される状態が継続するとみられる。

## 1. 調査の目的

小山市景気動向アンケート調査は、小山市の景気動向を把握するため、小山市の流通業、サービス業、製造業などの企業、店舗に対して小山市の景況、各業界の業況等をアンケート形式で調査したものである。

## 2. 調査対象・調査内容

### 2.1. 調査対象

令和3年11月から12月にかけて、小山市内の企業120社程度を対象に小山市の景気動向に関するアンケート調査を行い、39社から回答を得た。回収率は約33%である。

図表 2-1 回答企業の業種別構成

業種	社数(社)	
	今回	前回
流通業(小売業)	12	10
製造業	7	11
金融・保険業	3	4
運輸業	3	3
ホテル・旅館業	1	1
飲食業	2	5
通信・放送業	1	2
不動産・住宅業	3	2
サービス業	2	6
印刷業	0	1
不明	5	1
合計	39	46

(注) 前回は令和3年6月調査、業種を複数選択した企業、選択肢外の業種を回答した企業は不明に分類した。

前回調査(令和3年6月)に比べ

- ・ 増加した業種: 流通業(小売業)、不動産・住宅業、不明
- ・ 減少した業種: 製造業、金融・保険業、飲食業、通信・放送業、サービス業、印刷業

図表 2-2 回答企業の従業者数

従業員数(人)	企業数(社)	構成比(%)		
		今回	前回	前々回
1～4	6	15.4	15.2	18.2
5～9	9	23.1	15.2	9.1
10～19	5	12.8	10.9	11.4
20～29	3	7.7	2.2	2.3
30～49	3	7.7	13.0	13.6
50～99	6	15.4	13.0	20.5
100以上	5	12.8	23.9	18.2
不明	2	5.1	6.5	6.8
合計	39	100.0	100.0	100.1

(注) 前回は令和3年6月調査、前々回は令和2年12月調査。個々の構成比の四捨五入の関係で合計しても100%にならないことがある。

前回調査(令和3年6月)に比べ

- ・ 構成比が2%ポイント以上上昇した従業者規模: 5～9人、20～29人、50～99人
- ・ 構成比が2%ポイント以上減少した従業者規模: 30～49人、100人以上

図表 2-3 回答企業の売上高

売上高(円)	企業数(社)	構成比(%)		
		今回	前回	前々回
3,000万未満	6	15.4	13.0	11.4
3,000万～1億未満	3	7.7	8.7	11.4
1億～5億未満	13	33.3	26.1	29.5
5億～10億未満	4	10.3	8.7	9.1
10億以上	7	17.9	19.6	15.9
不明・該当なし	6	15.4	23.9	22.7
合計	39	100.0	100.0	100.0

(注) 前回は令和3年6月調査、前々回は令和2年12月調査。個々の構成比の四捨五入の関係で合計しても100%にならないことがある。

前回調査(令和3年6月)に比べ

- ・ 構成比が2%ポイント以上上昇した年間売上高規模: 3000万未満、1億～5億未満
- ・ 構成比が2%ポイント以上低下した年間売上高規模: 不明・該当なし

図表 2-4 回答企業における売上割合

小山市内の売上割合 (%)	企業数 (社)	構成比 (%)		
		今回	前回	前々回
80～100	11	28.2	21.7	34.1
60～79	9	23.1	21.7	27.3
40～59	3	7.7	13.0	4.5
20～39	5	12.8	13.0	13.6
0～19	9	23.1	19.6	13.6
不明・該当なし	2	5.1	10.9	6.8
合計	39	100.0	100.0	99.9

(注) 前回は令和3年6月調査、前々回は令和2年12月調査。個々の構成比の四捨五入の関係で合計しても100%にならないことがある。

小山市内の売上割合が60%以上の企業数の合計は20社(51.3%)となった(前回調査: 43.4%)。

## 2.2. 調査内容

今回の調査内容は、質問 1 から質問 14 までは、従来の調査と同様に、景況感に関わる項目である。そのうち、質問 1 から質問 4 までは、全般的な小山市の景気の現状および先行きに関してたずね、質問 5 から質問 14 までは、回答企業自身についての現状および先行きに関してたずねている。質問 15、16 は新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)に関する質問事項となっている。

- 質問 1: 小山市の景気の現状(水準)
- 質問 2-1: 質問 1 の回答理由
- 質問 2-2: 質問 2-1 の回答理由
- 質問 3: 令和 3 年下半期(7~12 月期) の小山市の景気見通し
- 質問 4: 質問 3 の回答理由
- 質問 5: 業界の小山市での売上げ(売上金額の増減)
- 質問 6-1: 質問 5 の回答理由(家計消費向け取引)
- 質問 6-2: 具体的な回答(家計消費向け取引)
- 質問 6-1: 質問 5 の回答理由(企業消費向け取引)
- 質問 6-2: 具体的な回答(企業消費向け取引)
- 質問 7: 業界の小山市での売上見通し
- 質問 8: 質問 7 の回答理由
- 質問 9: 令和 3 年下半期(7~12 月期) の販売価格見通し
- 質問 10: 令和 3 年下半期(7~12 月期) の雇用見通し
- 質問 11: 令和 3 年上半期(1~6 月期) の資金繰りの状況
- 質問 12: 質問 11 の回答理由
- 質問 13: 令和 3 年度の賃金等の状況
- 質問 14: 質問 13 の回答理由
- 質問 15-1: コロナ禍の影響(供給面)
- 質問 15-2: コロナ禍の影響(営業・勤務形態等)
- 質問 15-3: コロナ禍の影響(需要面)
- 質問 16: 質問 15 の回答理由



## 3. 調査結果

### 3.1. 全般的な小山市の景気

質問 1 から質問 4 までは、全般的な小山市の景気についてたずねた。以下その結果を述べる。

#### 3.1.1. 小山市の景気の現状(水準)(質問 1, 2-1, 2-2)

質問 1 では全般的な小山市の景気の現状(水準)をたずねた。令和 3 年下半期(7~12 月期)は「良い」0.0%、「やや良い」12.8%、「どちらともいえない」41.0%、「やや悪い」28.2%、「悪い」17.9%となった。前回と比べ「やや良い」、「どちらともいえない」の割合が上昇し、「やや悪い」の割合が下落する一方、「悪い」の割合が上昇した。前回調査(令和 3 年 6 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「やや良い」(+4.1)、「どちらともいえない」(+21.4)、「悪い」(+7.0)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「やや悪い」(-32.7)

となった。DI<sup>1</sup>で見ると 37.2%と前回(31.5%)、前々回(24.4%)から上昇傾向にあるものの、6 期連続で 50%を下回った(図表 3-1,3-2)。

質問 1 の回答理由(質問 2-1)についてみると、「お客様や取引先の様子」(59.0%)、「小山市の人出の状況」(25.6%)、「周辺地域の様子」(7.7%)が上位三位までの理由だった(図表 3-3)。

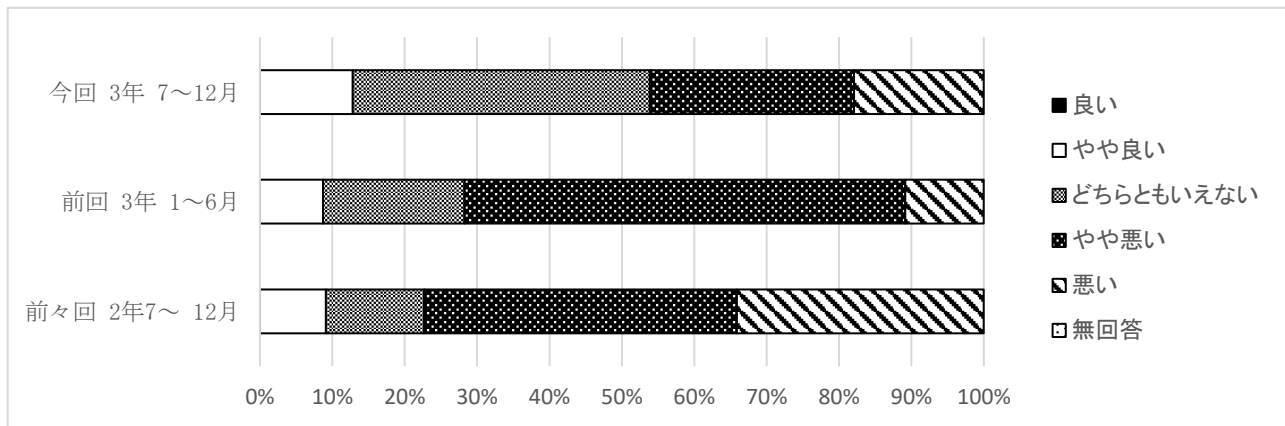
質問 2-1 の具体的な回答内容(質問 2-2)でも、令和 2 年初頭から継続している新型コロナウイルス感染症流行による経済活動への負の影響が挙げられていた。

---

<sup>1</sup> DI (Diffusion Index)とは、景気動向指数の一つであり、回答(%)の「良い」を 1、「やや良い」を 0.75、「どちらともいえない」を 0.5、「やや悪い」を 0.25、「悪い」を 0 として、構成比(無回答を除く)で加重平均したものである。DI が 50%を超えると景気回復、50%を下回ると景気悪化を示唆している。

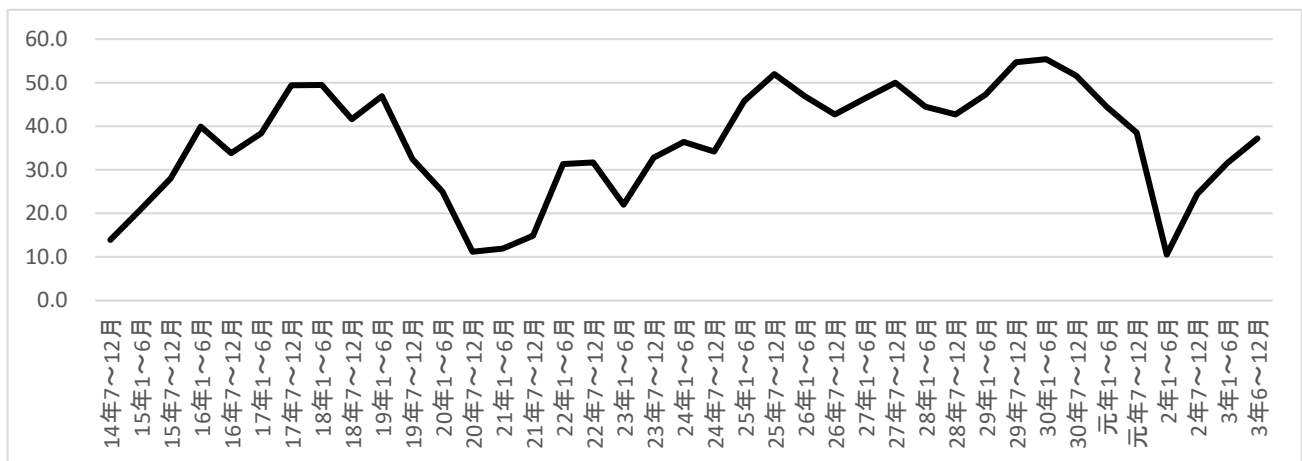
質問 1: 小山市の景気の現状(水準)

図表 3-1 回答の割合とDI(前回、前々回との比較を含む)



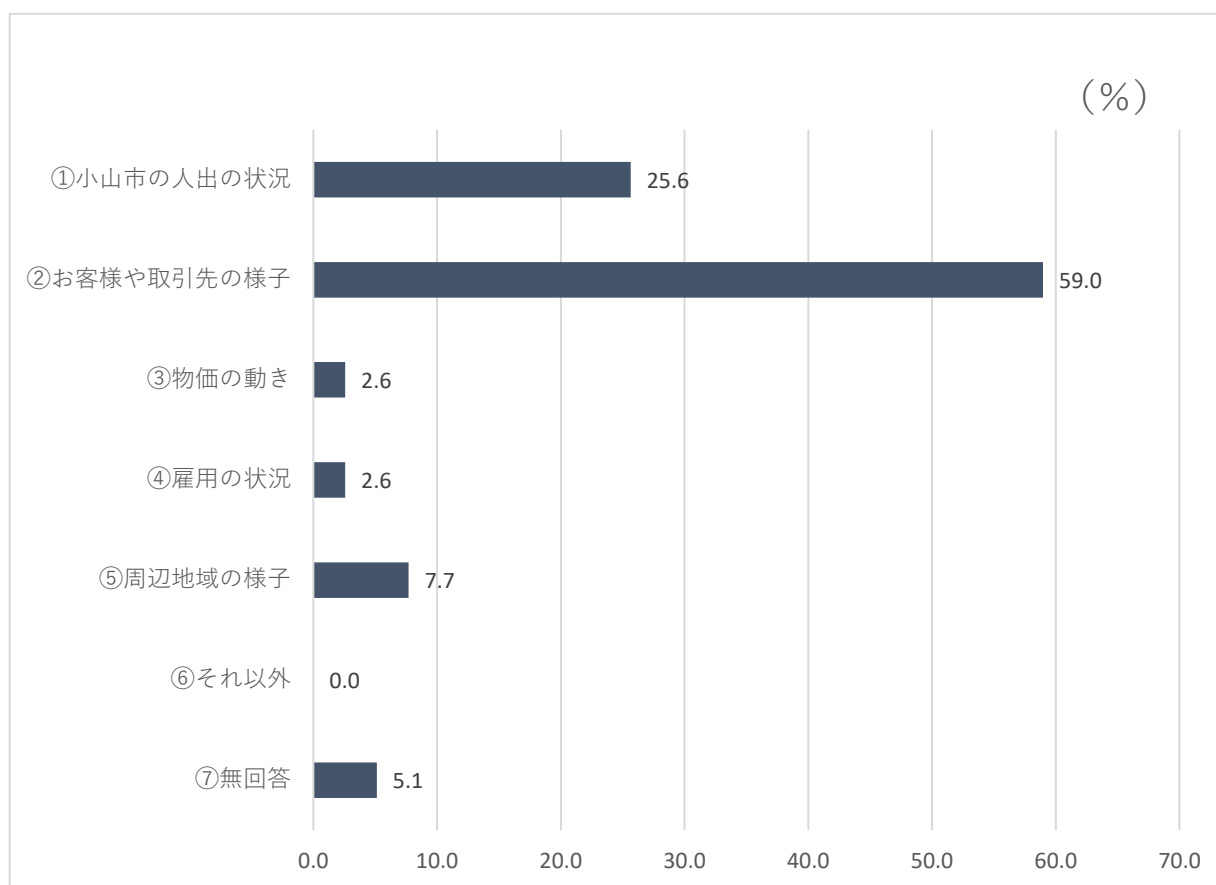
	(%)						DI
	良い	やや良い	どちらともいえない	やや悪い	悪い	無回答	
今回 3年 7~12月	0.0	12.8	41.0	28.2	17.9	0.0	37.2
前回 3年 1~6月	0.0	8.7	19.6	60.9	10.9	0.0	31.5
前々回 2年7~ 12月	0.0	9.1	13.6	43.2	34.1	0.0	24.4

図表 3-2 DI の推移(%)



質問 2-1: 質問 1 の回答理由

図表 3-3 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



質問2-1	①小山市の	②お客様や	③物価の	④雇用の	⑤周辺地域の	⑥それ	(%)
質問1	人出の状況	取引先の様子	動き	状況	様子	以外	無回答
良い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
やや良い	2.6	7.7	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0
どちらともいえない	7.7	23.1	2.6	2.6	0.0	0.0	5.1
やや悪い	15.4	10.3	0.0	0.0	5.1	0.0	0.0
悪い	0.0	17.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	25.6	59.0	2.6	2.6	7.7	0.0	5.1

(注) 39社に対する比率。複数回答があり、合計は100%にならない。

## 質問 2-2: 質問 2-1 の具体的な回答内容

### ◆ やや良い

- ・ 「近所のスーパーなどで人出が増えた」(①小山市の人出の状況)
- ・ 「客数お買い上げ金額の増加」(②お客様や取引先の様子)

### ◆ どちらともいえない

- ・ 「以前(コロナ流行前)の状況に戻ったわけではないが、コロナ流行ピーク時よりは、徐々に回復傾向にあるように感じる。」(②お客様や取引先の様子)
- ・ 「直接雇用の求人に対しての応募の件数は増えてきているが、派遣会社からの人材の紹介は止まっている為。」(④雇用の状況)

### ◆ やや悪い:

- ・ 「コロナ禍の影響でまだ得意先の飲食店等にお客がもどってこない」(②お客様や取引先の様子)
- ・ 「当社取引先(特に飲食店関係)の状況が良くない」(⑤周辺地域の様子)

### ◆ 悪い:

- ・ 「出張者の減少、飲食の利用人数制限及び時短営業による減少」(②お客様や取引先の様子)
- ・ 「飲食店を取り巻く状況はコロナの影響により、取引先(魚市場・野菜市場・食材卸し・酒屋を含め)非常に厳しい状態です。」(②お客様や取引先の様子)

### 3.1.2. 令和4年上半期(1～6月期)の小山市の景気見通し(質問3,4)

質問3の小山市の景気見通しに関して、令和4年上半期(1～6月期)は令和3年下半期(7～12月期)と比べ、「良くなる」5.1%、「やや良くなる」53.8%、「変わらない」28.2%、「やや悪くなる」7.7%、「悪くなる」2.6%となった(図表3-4, 3-5)。前回と比べ「やや良くなる」の割合が上昇した。一方で、「変わらない」、「やや悪くなる」の割合は下落した。前回調査(令和3年6月)と比べ、

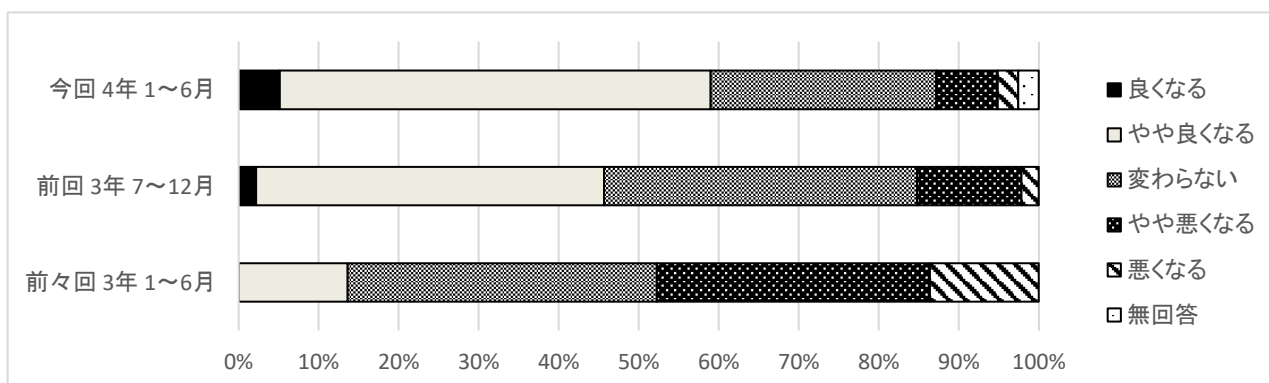
- ・ 3%ポイント以上増加: 「やや良くなる」(+10.3)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「変わらない」(-10.9)、「やや悪くなる」(-5.3)

となった。DIでみると63.2%と前回(57.6%)から改善し、調査開始以来最高の水準となった。

質問3の回答理由(質問4)では、新型コロナウイルスのワクチン接種が進むことへの期待から、景気回復を見込む予測がある一方で、物価の上昇への懸念も見られた。

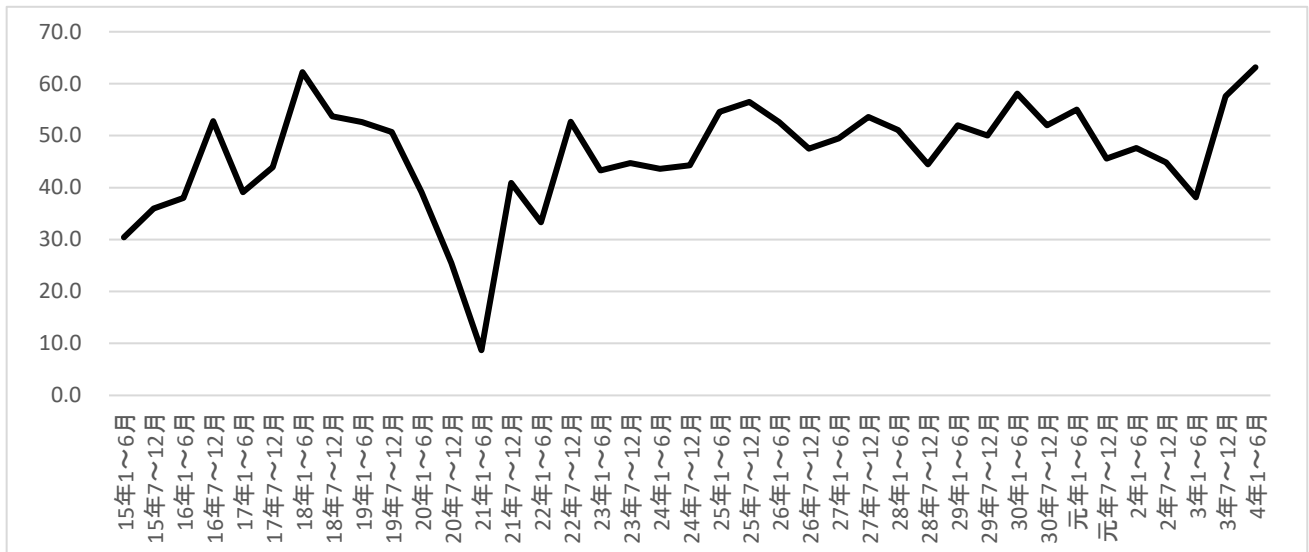
#### 質問3: 令和4年上半期(1～6月期)の小山市の景気見通し

図表 3-4 回答の割合とDI(前回、前々回との比較を含む)



見通しの対象時期	割合 (%)						DI
	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	無回答	
今回 4年 1～6月	5.1	53.8	28.2	7.7	2.6	2.6	63.2
前回 3年 7～12月	2.2	43.5	39.1	13.0	2.2	0.0	57.6
前々回 3年 1～6月	0.0	13.6	38.6	34.1	13.6	0.0	38.1

図表 3-5 DI の推移(%)



質問 4: 質問 3 の回答理由

- ◆ 良くなる
  - ・ 「コロナ接種を済ませた人が内向から外交へマインドが変化している。」
- ◆ やや良くなる
  - ・ 「コロナの波は来ると思うが、大きな影響を受けないと思う。経済対策も効果が出ると思う。」
  - ・ 「コロナでストップしていた経済が少しずつ動く様子があるから」
- ◆ 変わらない
  - ・ 「高齢化が大変気になる。消費に結びつかない。医療に特化しすぎ。」
  - ・ 「コロナは落ち着きを見せているが、消費が急拡大するとは思えない」
- ◆ やや悪くなる
  - ・ 「資材の高騰と供給不良の影響」
- ◆ 悪くなる
  - ・ 「オミクロン等の新型コロナ禍の発生が続いて来ると思うため」  
など

## 3.2. 小山市における業界の景気

質問 5 から質問 14 までは、小山市における回答企業・店舗の業界景気動向をたずねた。以下その結果を述べる。

### 3.2.1. 業界の小山市での売上げ(質問 5, 6-1, 6-2)

業界の小山市での売上げについて、令和 3 年下半期(7~12 月期)は「増加した」0.0%、「やや増加した」23.1%、「変わらない」43.6%、「やや減少した」20.5%、「減少した」10.3%となった(図表 3-6, 3-7)。前回と比べ「変わらない」の割合が上昇し、「やや減少した」の割合が下落した。前回調査(令和 3 年 6 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「変わらない」(+6.6)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「やや減少した」(-9.9)、

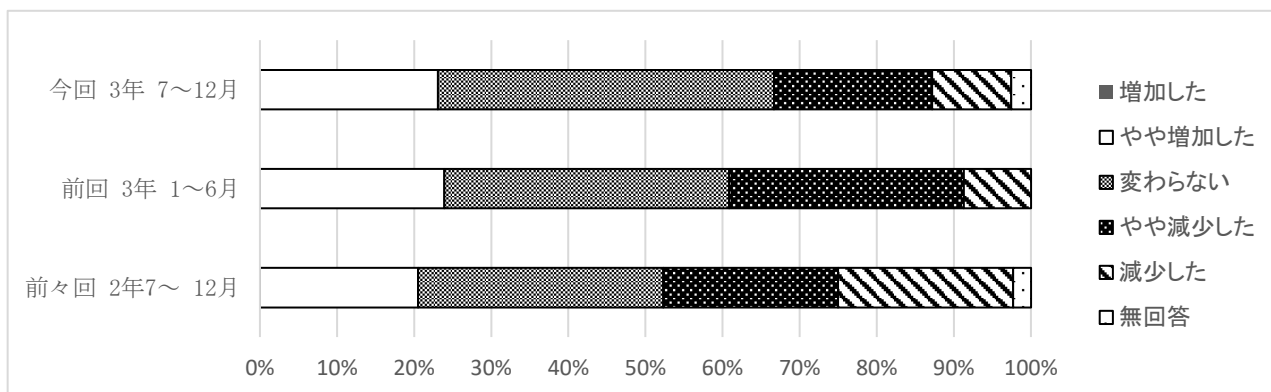
となった。DI でみると 45.4%と前回(44.0%)とほぼ変わらない水準であるが、6 期連続で 50%を下回った。

質問 5 の回答の理由(質問 6-1)についてみると、家計向け取引の場合、「無回答」を除いて、「来客数の動き」(35.9%)、「販売量の動き」(12.8%)、「お客様の様子」(12.8%)が上位三位までの理由だった(図表 3-8)。企業向け取引の場合、「無回答」を除いて、「受注量や販売量の動き」(43.6%)、「取引先の様子」(20.5%)、「受注価格や販売価格の動き」(7.7%)が上位三位までの理由だった(図表 3-9)。

質問 6-1 の具体的な回答内容(質問 6-2)では家計向け取引、企業向け取引のいずれでも、新型コロナウイルス感染症の流行に関する回答が多く見られた。

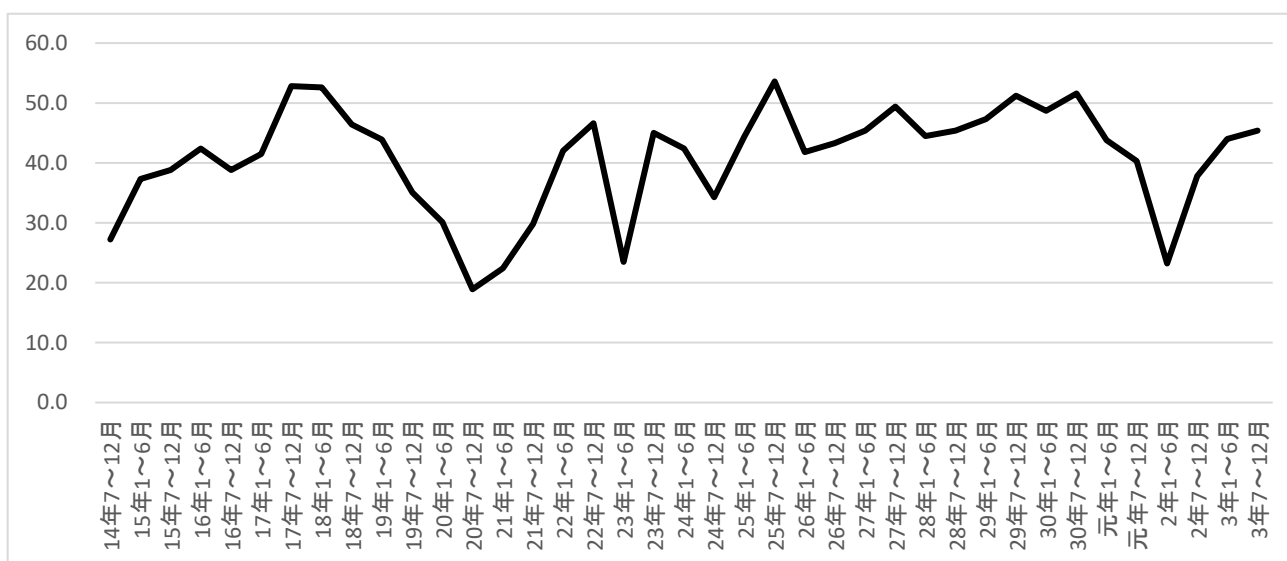
質問 5: 業界の小山市での売上げ(売上金額の増減)

図表 3-6 回答の割合とDI(前回、前々回との比較を含む)



	(%)						DI
	増加した	やや増加した	変わらない	やや減少した	減少した	無回答	
今回 3年 7~12月	0.0	23.1	43.6	20.5	10.3	2.6	45.4
前回 3年 1~6月	0.0	23.9	37.0	30.4	8.7	0.0	44.0
前々回 2年7~ 12月	0.0	20.5	31.8	22.7	22.7	2.3	37.8

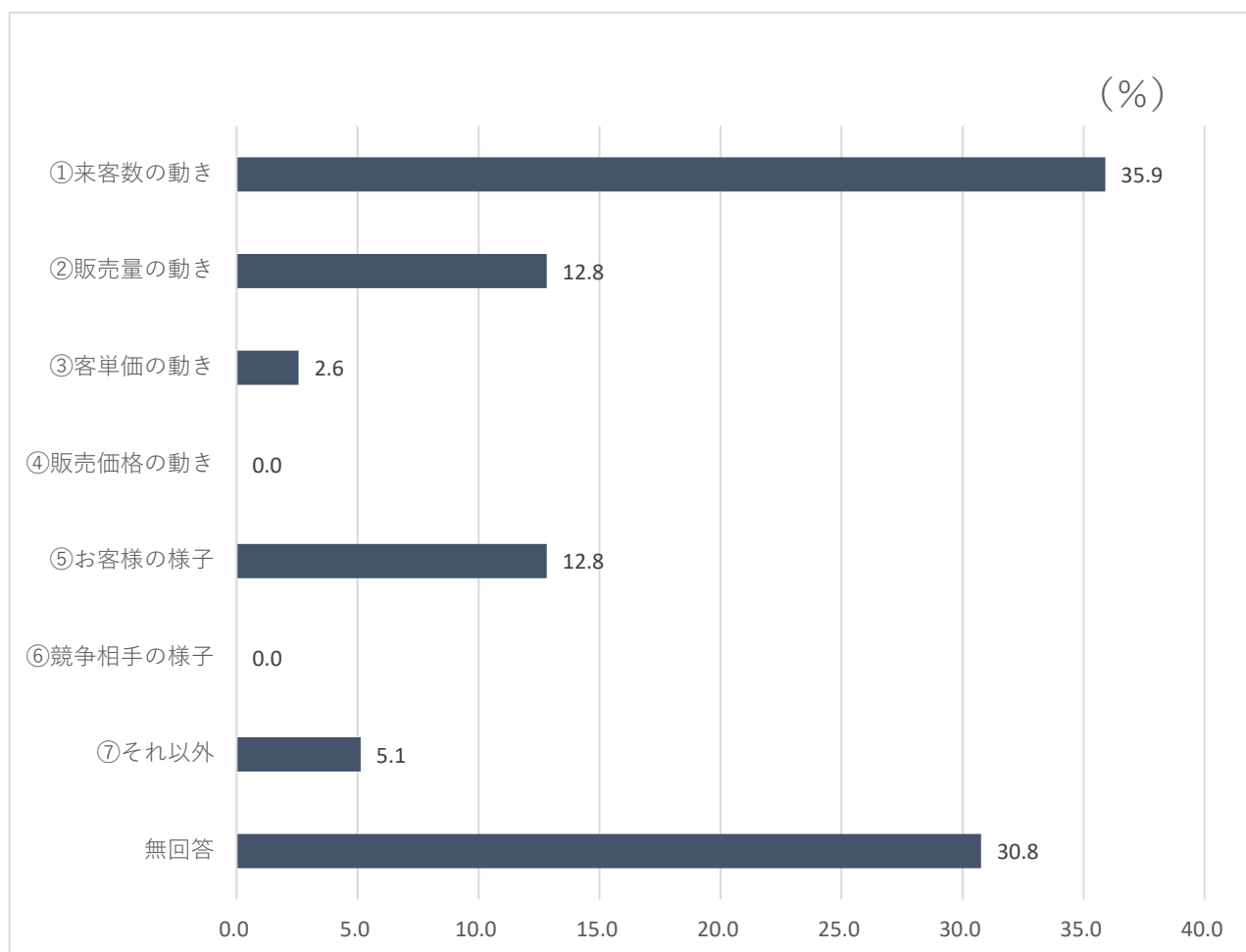
図表 3-7 DI の推移(%)





質問 6-1: 質問 5 の回答理由(家計消費向け取引)

図表 3-8 質問 5 と質問 6-1(家計消費向け取引)のクロス集計



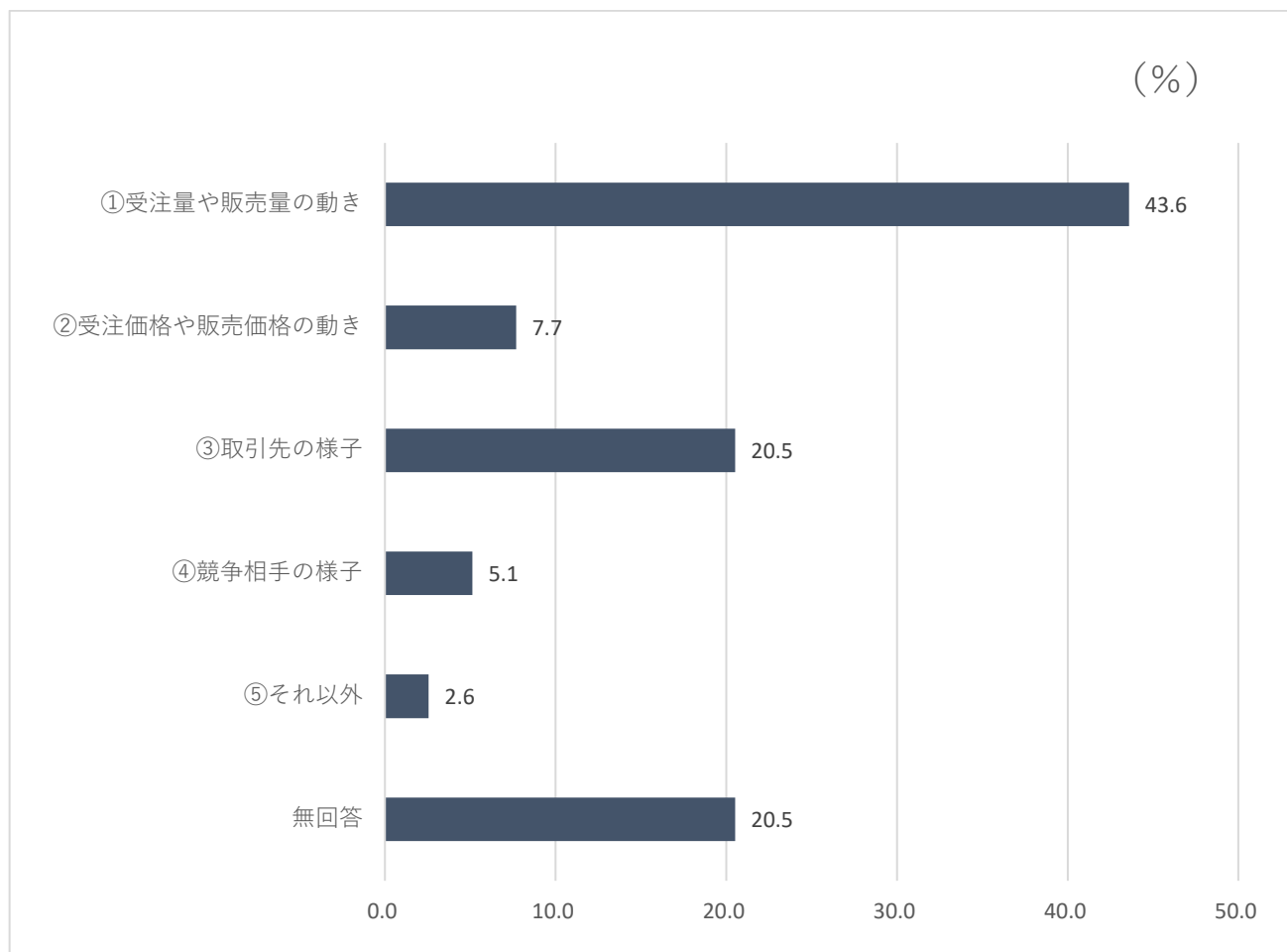
質問6-1	①来客数の動き	②販売量の動き	③客単価の動き	④販売価格の動き	⑤お客様の様子	⑥競争相手の様子	⑦それ以外	無回答	(%)
増加した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
やや増加した	12.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.3
変わらない	10.3	12.8	0.0	0.0	5.1	0.0	2.6	12.8	12.8
やや減少した	5.1	0.0	2.6	0.0	2.6	0.0	2.6	7.7	7.7
減少した	7.7	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0
計	35.9	12.8	2.6	0.0	12.8	0.0	5.1	30.8	

(注)無回答は家計向け取引のない企業が含まれる

表の%は39社に対する比率。

質問 6-1: 質問 5 の回答理由(企業消費向け取引)

図表 3-9 質問 5 と質問 6-1(企業消費向け取引)のクロス集計



	(%)					
質問6-1	①受注量	②受注価格	③取引先	④競争相手	⑤それ以外	無回答
質問5	や販売量	や販売価格	の様子	の様子		
増加した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
やや増加した	12.8	0.0	0.0	0.0	2.6	7.7
変わらない	17.9	2.6	12.8	2.6	0.0	7.7
やや減少した	2.6	2.6	7.7	2.6	0.0	5.1
減少した	10.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0
計	43.6	7.7	20.5	5.1	2.6	20.5

(注) 無回答には企業向け取引のない企業(店舗)が含まれる。

表の%は集計39社に対する比率。

#### 質問 6-2: 具体的な回答(家計消費向け取引)

- ◆ やや増加した
  - ・ 「下期後半にファッション関連需要伸びる」(流通業(小売業))
  - ・ 「来客が増えてきた」(飲食業)
- ◆ 変わらない
  - ・ 「商品価格の上昇(値上げ)」(流通業(小売業))
  - ・ 「顧客の様子に変化なし」(金融・保険業)
- ◆ やや減少した
  - ・ 「コロナ禍で得意先が規制で休業や時短の可能性がある」(流通業(小売業))
  - ・ 「来客数、受注数が減少した」(流通業(小売業))
- ◆ 減少した
  - ・ 「来客数の減少・会合など人が集まる事が減少しています。10月、11月は例年ですと(土曜・日曜)は七五三の後の会食のお客様が沢山お越しになるのですが、今年は非常に少なかったです。」(飲食業)  
など

#### 質問 6-2: 具体的な回答(企業消費向け取引)

- ◆ やや増加した
  - ・ 「感染状況と反動消費」(不動産・住宅業)
  - ・ 「2021年10月から前年同月比の売上が100%を超えてきている為」(運輸業)
- ◆ 変わらない
  - ・ 「飲食業界を見ても取り組み方法によって差が出ています。」(不明)
  - ・ 「建設業界においては、幸いなことにコロナの影響は最小限で済んでいるから」(製造業)
- ◆ やや減少した
  - ・ 「材料納期の長期化の影響」(製造業)
  - ・ 「金属素材の価格が大きく高騰している為」(製造業)
- ◆ 減少した
  - ・ 「お客様の減少」(運輸業)  
など

### 3.2.2. 業界の小山市での売上見通し(質問 7, 8)

業界の小山市での売上見通しに関して、令和4年上半期(1~6月期)は令和3年下半期(7~12月期)と比べ、「増加する」2.6%、「やや増加する」43.6%、「変わらない」35.9%、「やや減少する」15.4%、「減少する」2.6%となった(図表 3-10, 3-11)。前回と比べ「やや増加する」の割合が上昇し、「変わらない」の割合が下落した。前回調査(令和3年6月)と比べ、

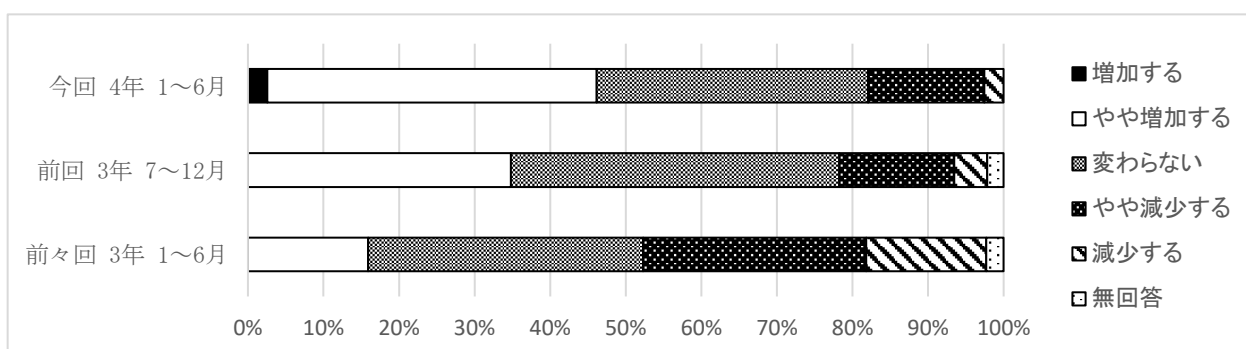
- ・ 3%ポイント以上増加: 「やや増加する」(+8.8)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「変わらない」(-7.6)

となった。DI でみると 57.1%と前回(52.8%)、前々回(38.4%)から上昇が継続しており、調査開始以来最高の水準となった。

質問7の回答の理由(質問8)についてみると、新型コロナウイルス感染症流行の収束への期待が挙げられていた一方で、物価の上昇や原材料の供給が滞っていることが懸念されていた。

#### 質問 7: 業界の小山市での売上見通し

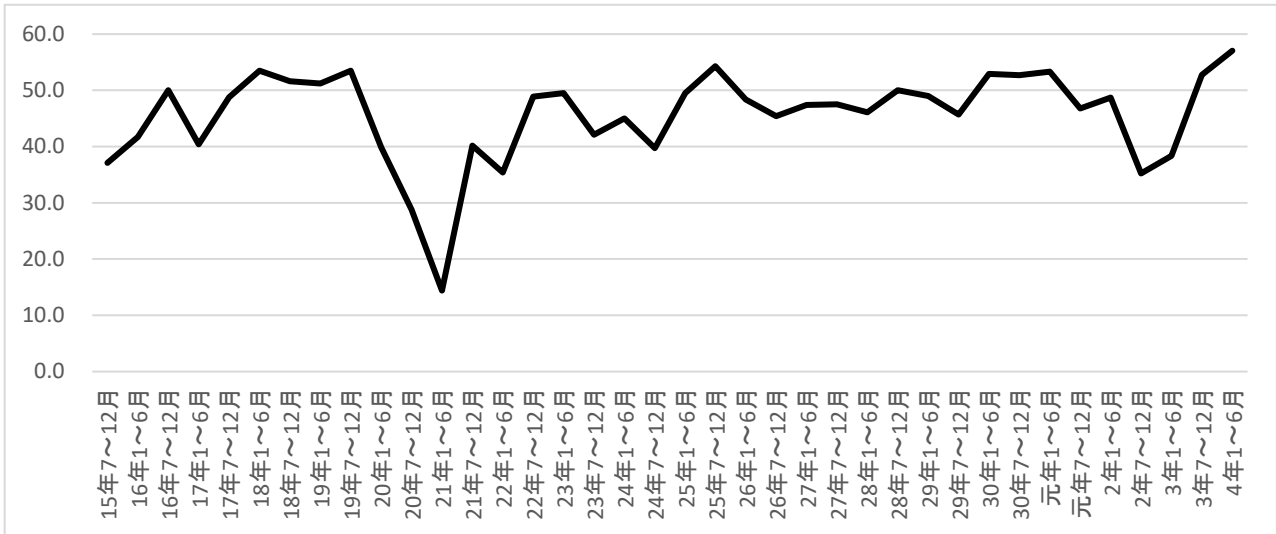
図表 3-10 回答の割合とDI(前回、前々回との比較を含む)



見通しの対象時期	割合 (%)						DI
	増加する	やや増加する	変わらない	やや減少する	減少する	無回答	
今回 4年 1~6月	2.6	43.6	35.9	15.4	2.6	0.0	57.1
前回 3年 7~12月	0.0	34.8	43.5	15.2	4.3	2.2	52.8
前々回 3年 1~6月	0.0	15.9	36.4	29.5	15.9	2.3	38.4

(注) 複数選択した回答は無回答に分類した。

図表 3-11 DI の推移(%)



質問 8: 質問 7 の回答理由

- ◆ 増加する
  - ・ 「コロナ感染者の減少により、企業活動が活発化するため」(ホテル・旅館業)
- ◆ やや増加する
  - ・ 「コロナの3回目の予防接種も始まり、コロナ感染者数も落ち着き、人の動きも出てくると思う。」(運輸業)
  - ・ 「大型工事案件の受注による」(不明)
- ◆ 変わらない
  - ・ 「先の見通しが立たない」(流通業(小売業))
  - ・ 「大手ゼネコンの直近の決算発表で落ち込みが見られ、今後の受注単価に影響される懸念があるが、今のところ不透明である。」(製造業)
- ◆ やや減少する
  - ・ 「全体的の人の動きの減少」(運輸業)
  - ・ 「コロナの影響により会社関係、学校関係、お役所など会食の自粛や会食の人数制限が出ているため。」(飲食業)

など

### 3.2.3. 令和4年上半期(1～6月期)の販売価格見通し(質問9)

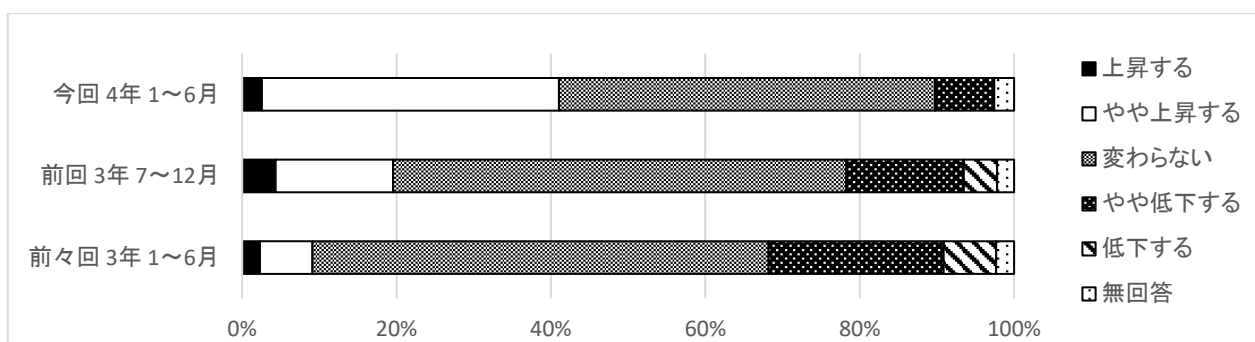
販売価格見通しについて、令和4年上半期(1～6月期)は令和3年下半期(7～12月期)と比べ、「上昇する」2.6%、「やや上昇する」38.5%、「変わらない」48.7%、「やや低下する」7.7%、「低下する」0.0%となった(図表3-12, 3-13)。前回と比べ「やや上昇する」の割合が上昇し、「変わらない」、「やや低下する」、「低下する」の割合が下落した。前回調査(令和3年6月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「やや上昇する」(+23.3)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「変わらない」(-10.0)、「やや低下する」(-7.5)、「低下する」(-4.3)

となった。DIでみると59.2%と、前回(50.0%)、前々回(43.6%)から上昇傾向にあり、平成29年下半期(7～12月期)の調査(62.2%)に次いで、調査開始以来2番目に高い水準となった。

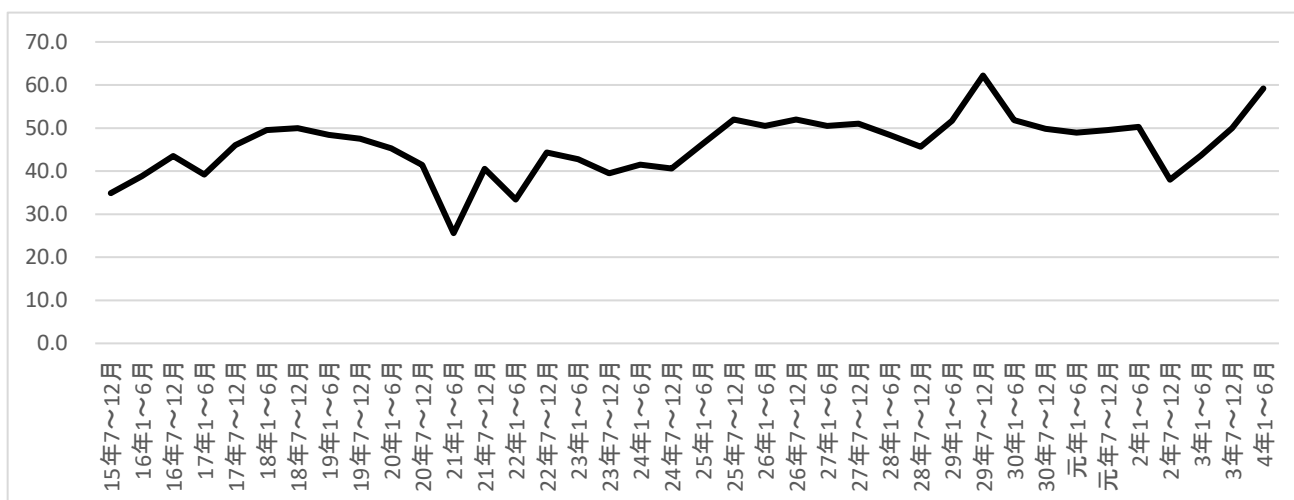
#### 質問9: 令和4年下半期(1～6月期)の販売価格見通し

図表 3-12 回答の割合とDI(前回、前々回との比較を含む)



見通しの対象時期							(%)	
	上昇する	やや上昇する	変わらない	やや低下する	低下する	無回答	DI	
今回 4年 1～6月	2.6	38.5	48.7	7.7	0.0	2.6	59.2	
前回 3年 7～12月	4.3	15.2	58.7	15.2	4.3	2.2	50.0	
前々回 3年 1～6月	2.3	6.8	59.1	22.7	6.8	2.3	43.6	

図表 3-13 DIの推移(%)



### 3.2.4. 令和4年上半期(1～6月期)の雇用見通し(質問10)

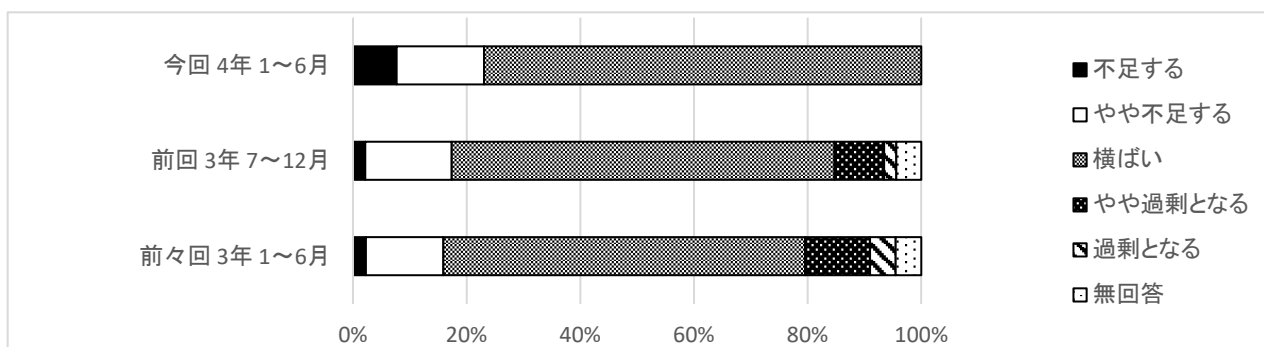
質問10の雇用見通しに関して、令和4年上半期(1～6月期)は令和3年下半期(7～12月期)と比べ、「不足する」7.7%、「やや不足する」15.4%、「横ばい」76.9%、「やや過剰となる」0.0%、「過剰となる」0.0%となった(図表3-14, 3-15)。前回と比べ「不足する」、「横ばい」の割合が上昇し、「やや過剰となる」、「過剰となる」の割合が下落した。前回調査(令和3年6月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「不足する」(+5.5)、「横ばい」(+9.5)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「やや過剰となる」(-8.7)、「無回答」(-4.3)

となった。DIでみると57.7%と、前回(51.7%)から上昇し、2期連続で50%を上回った。

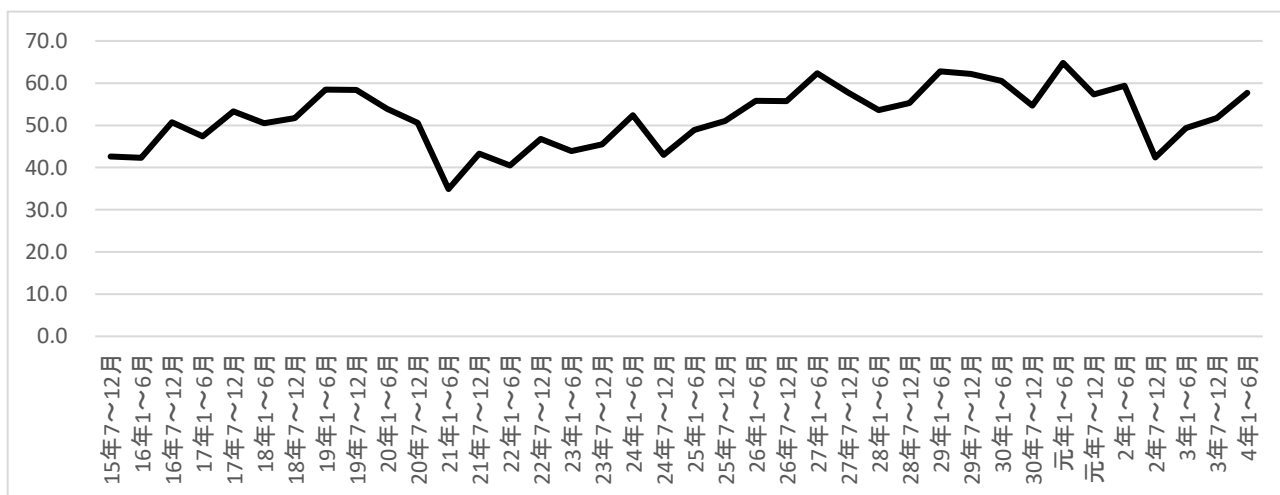
#### 質問10: 令和4年上半期(1～6月期)の雇用見通し

図表 3-14 回答の割合とDI(前回、前々回との比較を含む)



見通しの対象時期	割合 (%)						DI
	不足する	やや不足する	横ばい	やや過剰となる	過剰となる	無回答	
今回 4年 1～6月	7.7	15.4	76.9	0.0	0.0	0.0	57.7
前回 3年 7～12月	2.2	15.2	67.4	8.7	2.2	4.3	51.7
前々回 3年 1～6月	2.3	13.6	63.6	11.4	4.5	4.5	49.4

図表 3-15 DIの推移(%)



### 3.2.5. 令和3年下半期(7～12月期)の資金繰りの状況(質問11, 12)

質問11の資金繰りの状況に関して、令和3年下半期(7～12月期)は令和3年上半期(1～6月期)と比べ、「改善した」2.6%、「やや改善した」30.8%、「どちらともいえない」46.2%、「やや悪化した」15.4%、「悪化した」5.1%となった(図表3-16, 3-17)。前回と比べ「やや改善した」の割合が上昇し、「どちらともいえない」の割合が下落した。前回調査(令和3年6月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「やや改善した」(+11.2)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「どちらともいえない」(-10.3)

となった。DIで見ると52.6%と、前回(48.9%)、前々回(45.3%)から上昇傾向にあり、令和元年上半期(1～6月期)調査以来50%を上回った。

質問11の回答の理由(質問12)についてみると、「売上高の変化」(53.8%)、「仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化」(38.5%)、「人件費の変化」及び「その他」(15.4%)が上位三位までの理由だった(図表3-18)。前回調査から、特に「仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化」の割合が大きく上昇した。前回調査(令和3年6月)と比べ、

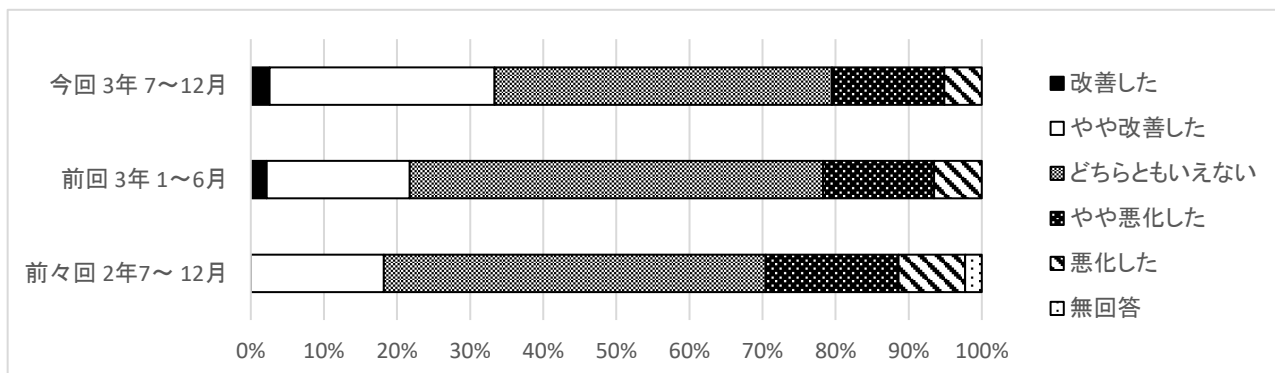
- ・ 3%ポイント以上増加: 「売上高の変化」(6.0)、「仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化」(+16.8)、「人件費の変化」(+6.7)、
- ・ 3%ポイント以上減少: 「金融政策、金利の変化」(-3.9)、「無回答」(-5.8)

となった。



質問 11: 令和 3 年下半期(7~12 月期) の資金繰りの状況

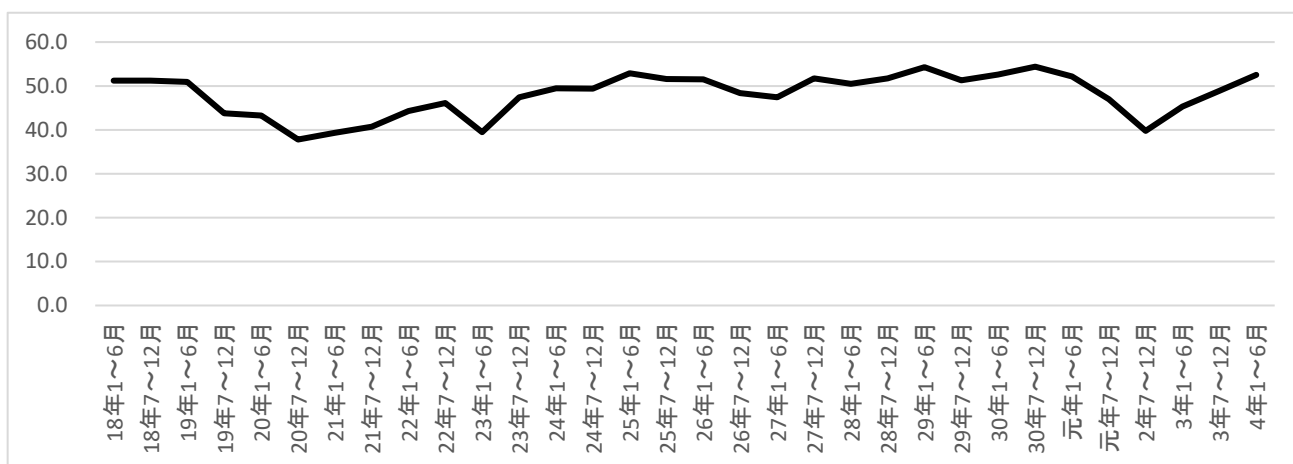
図表 3-16 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



							(%)
	改善した	やや改善した	どちらともいえない	やや悪化した	悪化した	無回答	DI
今回 3年 7~12月	2.6	30.8	46.2	15.4	5.1	0.0	52.6
前回 3年 1~6月	2.2	19.6	56.5	15.2	6.5	0.0	48.9
前々回 2年 7~12月	0.0	18.2	52.3	18.2	9.1	2.3	45.3

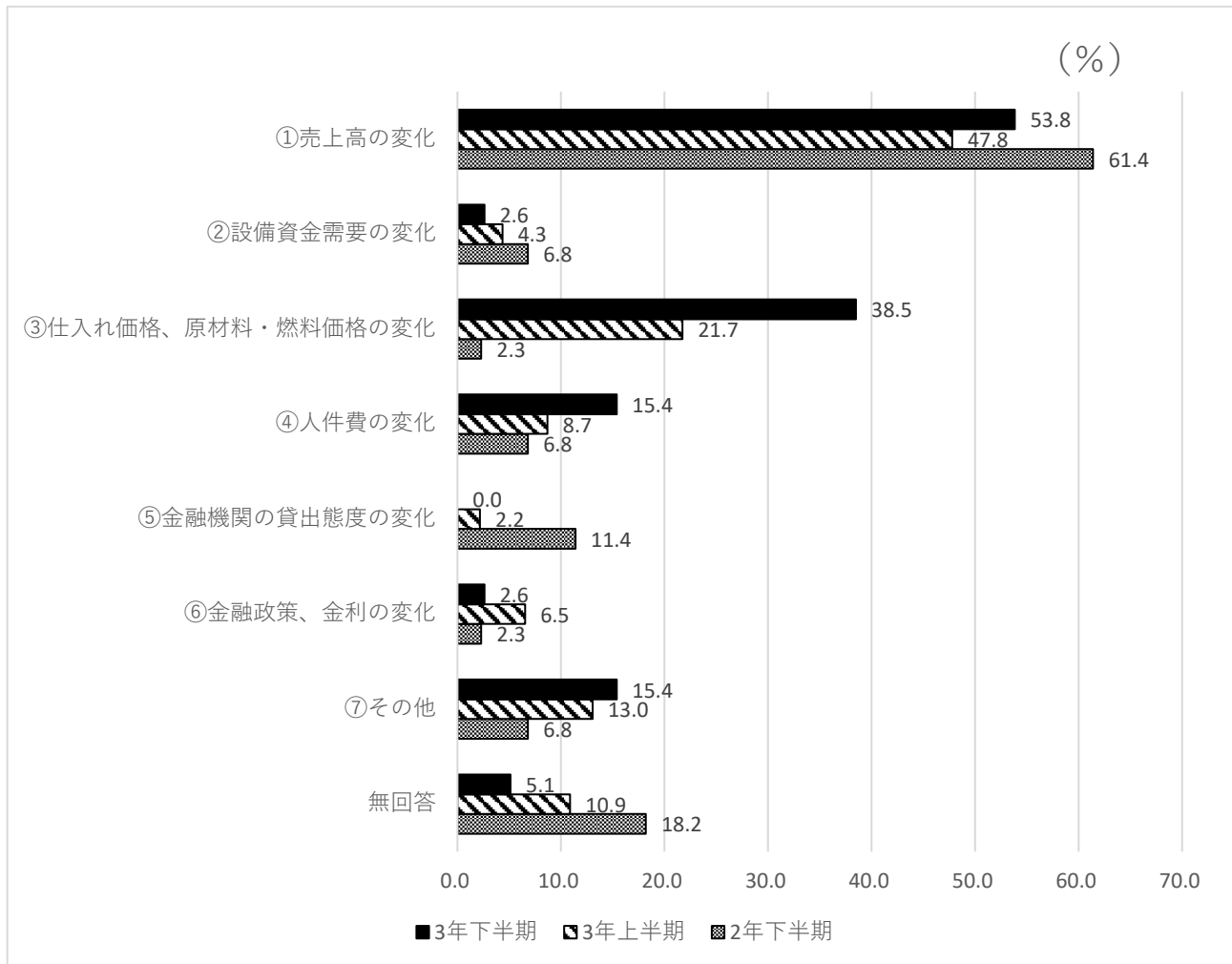
(注) 複数選択した回答は無回答に分類した。

図表 3-17 DI の推移(%)



質問 12: 質問 11 の回答理由

図表 3-18 回答の割合(前回、前々回との比較を含む)



								(%)
質問12	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	無回答
質問11								
改善した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0
やや改善した	17.9	2.6	2.6	5.1	0.0	2.6	5.1	0.0
どちらともいえない	28.2	0.0	23.1	7.7	0.0	0.0	2.6	5.1
やや悪化した	7.7	0.0	7.7	2.6	0.0	0.0	2.6	0.0
悪化した	0.0	0.0	5.1	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	53.8	2.6	38.5	15.4	0.0	2.6	15.4	5.1

(注) 39社に対する比率。複数回答があり、合計は100%にならない。

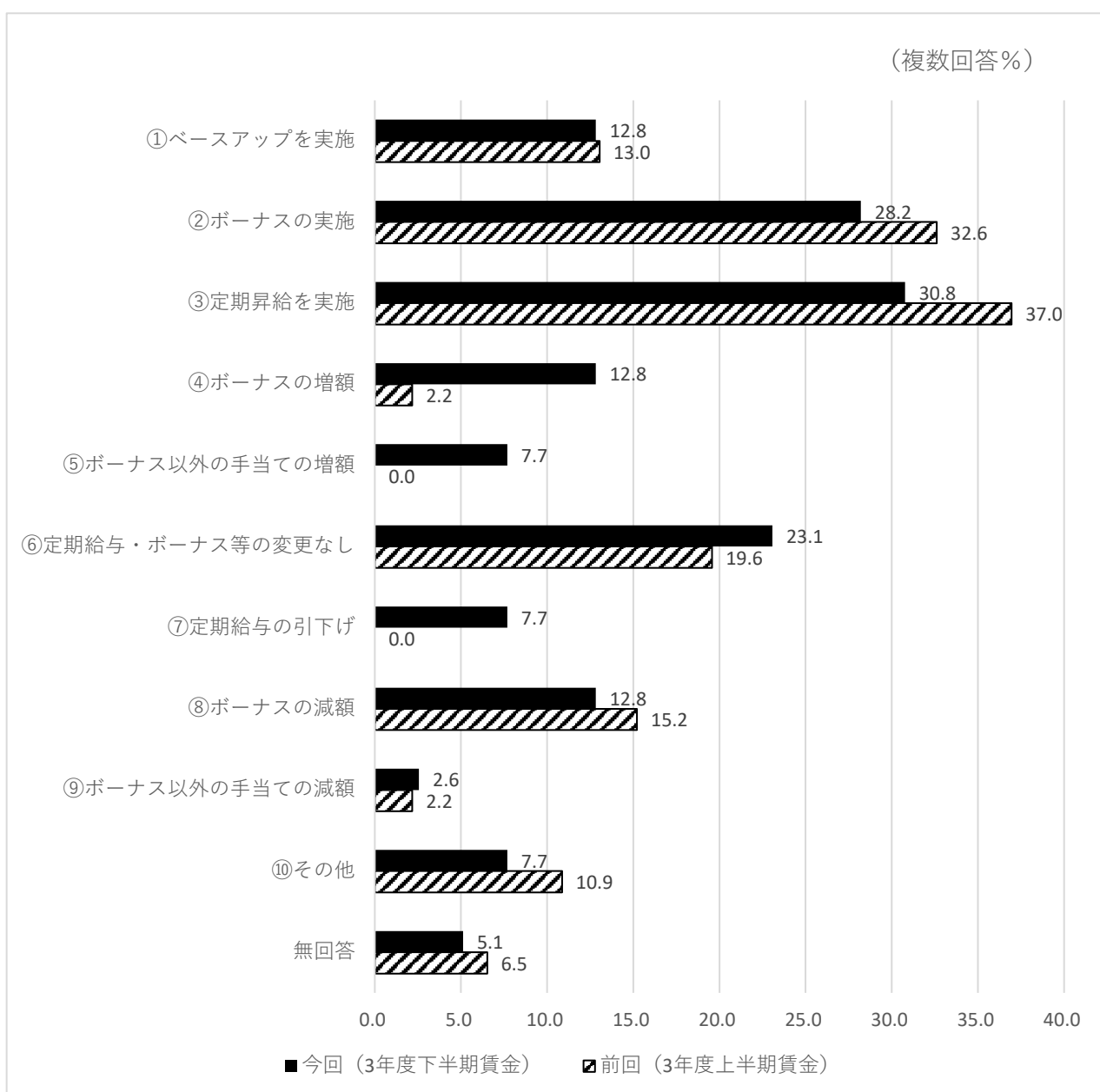
### 3.2.6. 賃金等の状況(質問 13, 14)

前回調査(令和3年6月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「ボーナスの増額」(+10.6)、「ボーナス以外の手当の増額」(+7.7)、「定期給与・ボーナス等の変更なし」(+3.5)、「定期給与の引下げ」(+7.7)
  - ・ 3%ポイント以上減少: 「ボーナスの実施」(-4.4)、「定期昇給を実施」(-6.2)、「その他」(-3.2)
- となった(図表 3-19)。

#### 質問 13: 賃金等の状況

図表 3-19 回答の割合(前期との比較を含む)



#### 質問 14: 質問 13 の回答理由

- ◆ ①ベースアップを実施
  - ・ 「良い人材の確保のため」
- ◆ ⑤ボーナス以外の手当の増額
  - ・ 「小売業ではボーナスベースアップ等はパートの方等には出すのは大変です。」
- ◆ ⑥定期給与・ボーナス等の変更なし
  - ・ 「売上高の減少の為」
- ◆ ⑧ボーナスの減額
  - ・ 「コロナ禍の中、徐々に売上げが増えてきているが、まだコロナ禍前の売上げからすると、2割減となっている為」
- ◆ ①ベースアップを実施、②ボーナスの実施
  - ・ 「コロナ禍で業績は悪化し、頑張って乗り越えていけないといけない中、給料の面で下げることはできないと判断したため。」
- ◆ ①ベースアップを実施、⑧ボーナスの減額
  - ・ 「昨年の業績に比べ、利益面で減少し、ボーナスに反映されたから。」
- ◆ ②ボーナスの実施、③定期昇給を実施
  - ・ 「前年並みで実施」
  - ・ 「景気は良くないが、従業員のモチベーション維持の為、実施しました。」
- ◆ ②ボーナスの実施、③定期昇給を実施、④ボーナスの増額
  - ・ 「業績が順調であり定期昇格、賞与の増額を実施した」
- ◆ ③定期昇給を実施、⑥定期給与・ボーナス等の変更なし
  - ・ 「夏のボーナスは令和2年度実績での支給で増額したが、冬のボーナスは令和3年度実績予測の為減額となる。」
- ◆ ⑦定期給与の引下げ、⑨ボーナスの減額
  - ・ 「雇用調整助成金でなんとか雇用をつないでいるので、ボーナスどころの話ではない」  
など

### 3.3. 昨今の社会・経済情勢に関する質問

質問 15、16 は、小山市における昨今の社会・経済情勢に関する質問を行った。以下その結果を述べる。

#### 3.3.1. 新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)の影響

質問 15(質問 15-1～15-3)、質問 16 では新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)の影響とその理由についてたずねた。それぞれ、供給面(質問 15-1)、営業・勤務形態等(質問 15-2)、需要面(質問 15-3)の影響に分けて質問を行った。

その結果(複数回答可)をみると、まず、供給面(質問 15-1)では、「もともとコロナ禍の影響はほとんどない」(25.6%)、「供給能力はコロナ禍前の状態に戻っていない」(23.1%)、「コロナ禍前に比べ一部商品の仕入が困難なままだ」(15.4%)が上位三位までの理由だった(図表 3-20)。

前回調査(令和 3 年 6 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「コロナ禍前に比べ一部商品の仕入が困難なままだ」(+13.2)、「コロナ禍前に比べ原材料・部品の入手が困難なままだ」(+8.5)、「供給能力はコロナ禍前の状況に戻っていない」(+5.7)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「商品の仕入の状況はコロナ禍前に戻った」(-3.2)、「供給能力はコロナ禍前の状況に回復した」(-3.6)、「もともとコロナ禍の影響はほとんどない」(-11.3)、「その他」(-7.5)

となった(図表 3-20)。

次に、営業・勤務形態等(質問 15-2)では、「コロナ禍前の営業時間に戻った」(28.2%)、「もともとコロナ禍の影響はほとんどない」(20.5%)、「従業員の勤務についてコロナ禍前の状態に戻った」(17.9%)が上位三位までの理由だった(図表 3-21)。

前回調査(令和 3 年 6 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「コロナ禍前の営業時間に戻った」(+15.2)、「従業員の勤務についてコロナ禍前の状態に戻った」(+4.9)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「コロナ禍前に比べ営業時間の短縮・変更等を余儀なくされたままだ」(-4.2)、「もともとコロナ禍の影響はほとんどない」(-3.4)

となった(図表 3-21)。

最後に、需要面(質問 15-3) では、「コロナ禍前に比べ需要全体が減少した」(38.5%)、「コロナ禍前に比べ一部商品の需要が減少した」(15.4%)、「全体的にコロナ禍前の状況に需要がほぼ回復した」(12.8%)が上位三位までの理由だった(図表 3-22)。

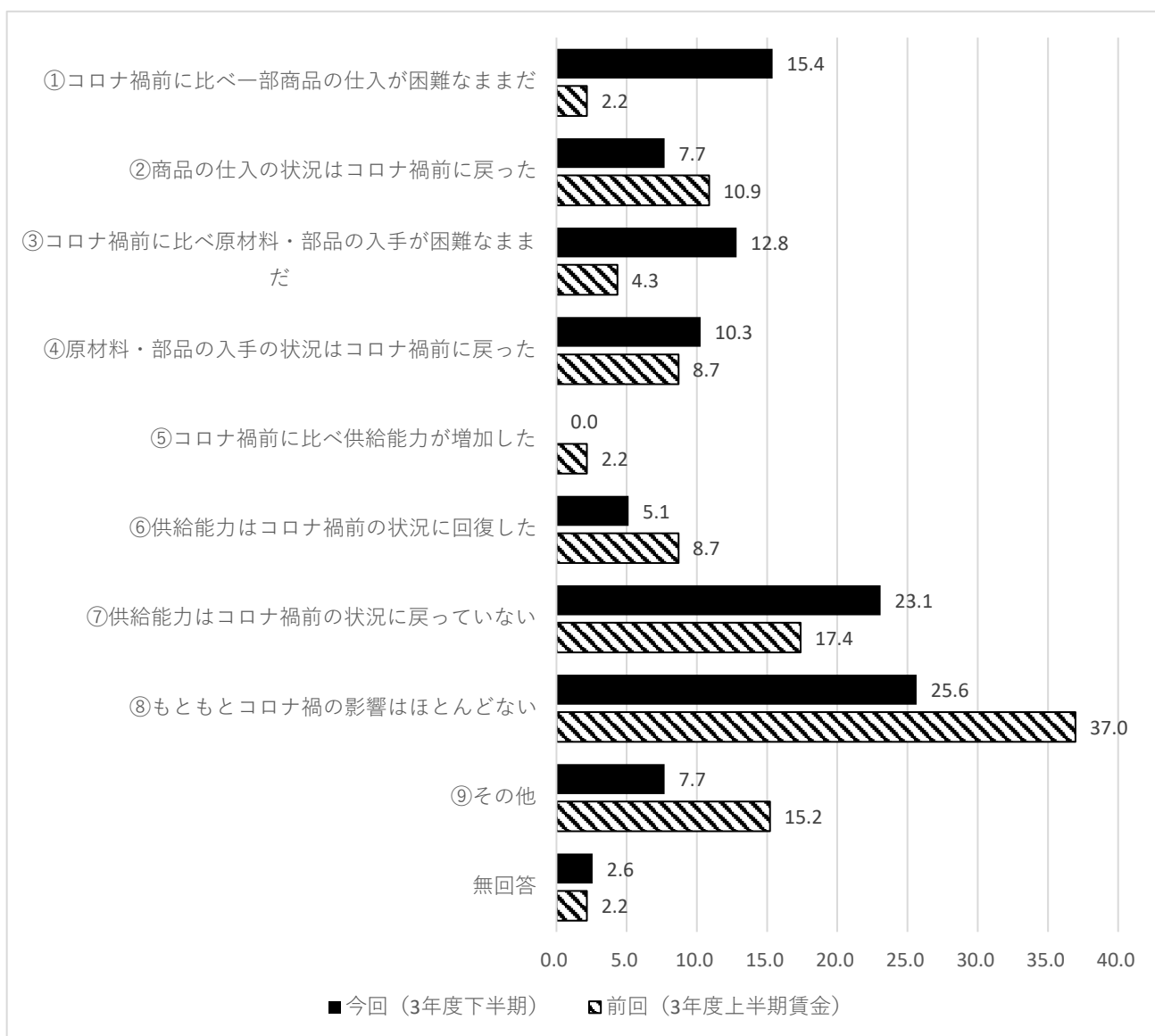
前回調査(令和 3 年 6 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「コロナ禍前に比べ一部商品の需要が減少した」(+4.5)、「全体的にコロナ禍前の状況に需要がほぼ回復した」(+4.1)、「コロナ禍前に比べ需要が全体的に回復した」(+5.9)、「無回答」(+5.5)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「コロナ禍前に比べ需要全体が減少した」(-13.7)、「コロナ禍前に比べ一部商品の需要が増加した」(-3.2)

となった(図表 3-22)。

質問 15-1: コロナ禍の影響(供給面)

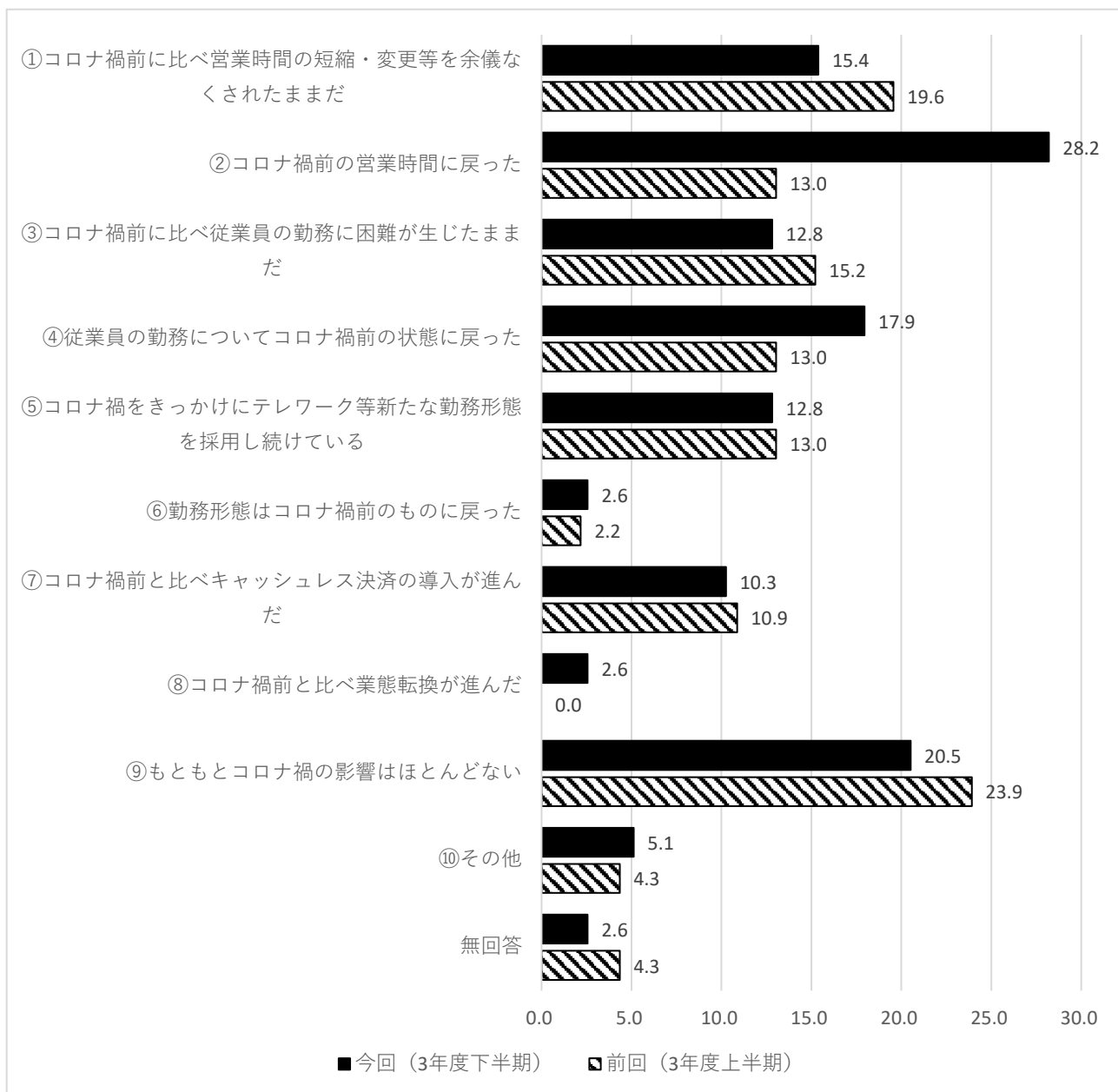
図表 3-20 回答の割合



(注) 今回調査は 39 社に対する比率、前回調査は 46 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

質問 15-2: コロナ禍の影響(営業・勤務形態等)

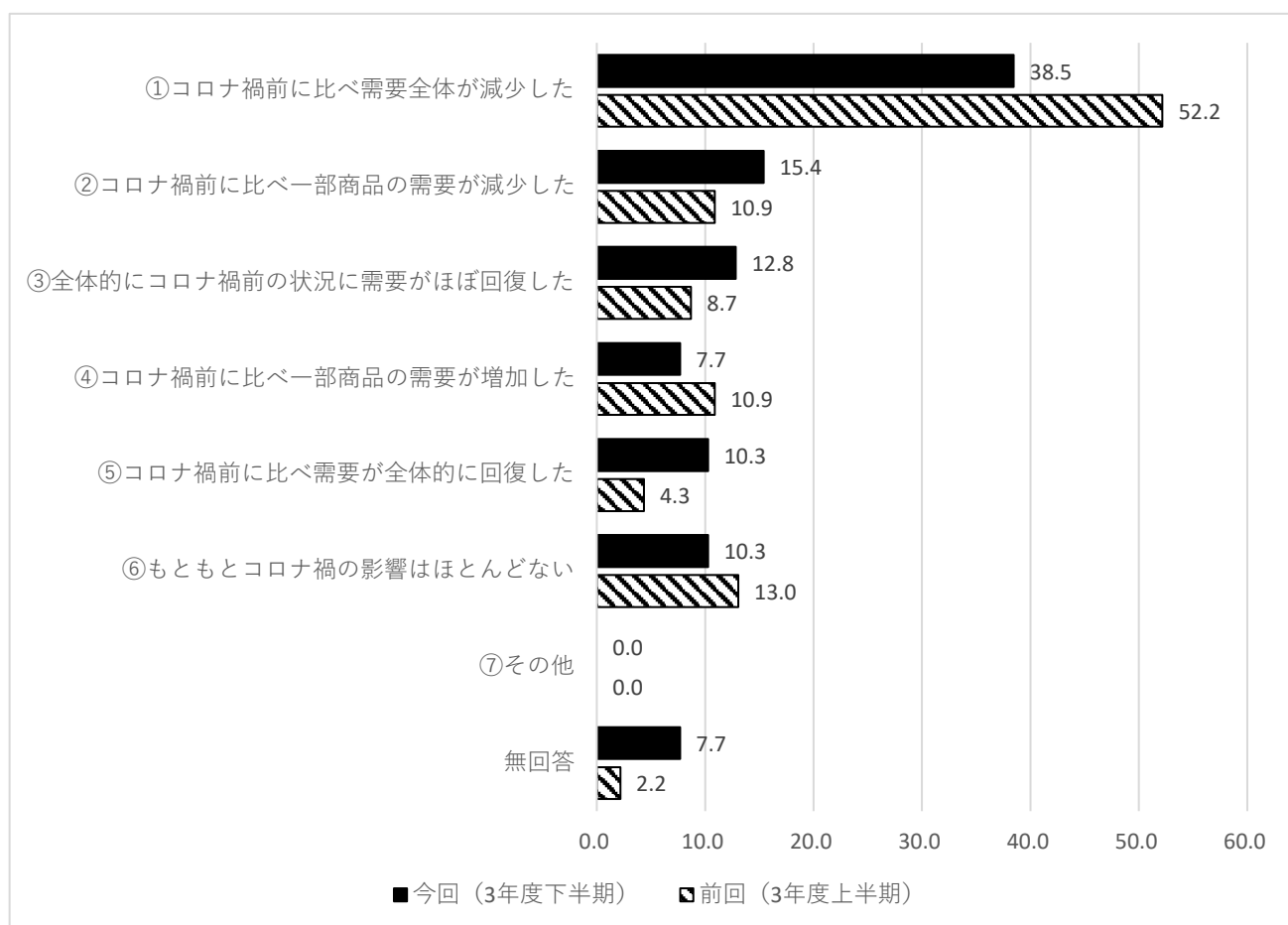
図表 3-21 回答の割合



(注) 今回調査は 39 社に対する比率、前回調査は 46 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

質問 15-3: コロナ禍の影響(需要面)

図表 3-22 回答の割合



(注) 今回調査は 39 社に対する比率、前回調査は 46 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。



#### 質問 16: 質問 15 の回答理由

- ・ 「受注契約量はコロナ禍関係なくほぼ例年通りであった。」(質問 15-1③、15-2⑨、15-3⑥)
- ・ 「アルコールが目の仇にされ、得意先の休業や廃業などにより、これから先も非常に厳しい状況が続くと予想される。」(質問 15-2①、③、15-3①)
- ・ 「いちばんひどい状況は過ぎたと思いますが、まだ影響が残っている気がします。」(質問 15-1②、15-2②、15-3②)
- ・ 「一部の業種では忙しくなっている様で、それに使用する商品の受注は回復している。」(質問 15-1①、15-2①、15-3④)
- ・ 「海外でのコロナ禍によるサプライチェーンに影響が生じ、一部の商品滞りが見られます。また、特に北米向け海上運賃の 10 倍に及ぶ高騰によって経営が圧迫されはじめました。」(質問 15-1⑧、15-2⑤、15-3③)
- ・ 「コロナ禍により、人の生活様式が変化し外出が減少した。仕事においてもテレワークやズーム会議など、人が集まる事が少なくなった。」(質問 15-1⑦、15-2①、15-3①)
- ・ 「お客様の来客数・来店数は減少して、依然厳しい状況ですが、値段の良いテイクアウトや配達向けの幕の内弁当やお寿司など、会議用(会議の後の食事)、お子様(七五三)などのお祝い用や法事用の値段の良いお弁当など、お寺さんに直接配達するなど、テイクアウトや配達は多いです。」(質問 15-1①、③、⑦、15-2③、15-3①、④)
- ・ 「当社事業範囲の住宅リフォームについては、テレワークや時短などの中で家で過ごす時間の増加に伴い、住宅の環境改善のニーズは大きな高まりを見せた。お庭の改修は特に高いニーズを示していた。」(質問 15-1①、15-2②、④、⑤、15-3④)
- ・ 「受注減により、仕事量が 30-40%減少。現在は通常の状態に戻ってきているが、全体としては(見通しは)受注量は下降ぎみとなる予想。」(質問 15-1⑨、15-2④、15-3①)
- ・ 「建設業界事体が、コロナの影響を受けにくいと思われるから。」(質問 15-1⑧、15-2⑨、15-3⑥)など

## 4. 小山市経済動向ヒアリング調査

例年、ヒアリング調査(聞き取り調査)は、白鷗大学ビジネス開発研究所に小山市の経済動向に敏感な代表的業種の方々にお集まりいただき実施してきたが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、令和4年2月に書面にて行った。業種は流通業(小売業)、製造業、金融・保険業、運送業、ホテル・旅館業、不動産・住宅業および小山商工会議所の方々である。各業界関係者の方々には4つの共通質問と業界別の追加質問、商工会議所の方には1つの共通質問と追加質問にお答えいただいた。また、ヒアリング調査実施後、白鷗大学経営学部の小笠原教授(ビジネス開発研究所長)からコメントがあった。

### 流通業(小売業)(自動車販売)

#### 質問1 新型コロナウイルス感染症の世界的な流行を踏まえ、2021年とくに秋以降の小山地域における貴社・貴店、貴業界の景気(売上等)の状況、および2022年の景気(売上等)の見通し

2021年はコロナ終息の期待から始まったが、感染の拡大と縮小を繰り返し、年間を通して売上、物流コスト増等、悪影響が多く出た。自動車業界全体では、半導体不足の影響で工場の生産が縮小し、新車の納期が異常にかかり、秋口が底(新車50%)で、徐々に回復傾向(80%)となるも、オミクロン及び半導体不足で足踏み状況が現在も続いている。

2022年はワクチンの効果や経口薬の活用が進みコロナの影響は少なくなるも、半導体不足、物流コスト、ガソリン高、物価の上昇、賃金の上昇もあり、環境的には厳しい状況が続いている。また販売方法も所有から使用への変化に対応出来るよう備えが必要である。

#### 質問2 最近の物価上昇が貴社・貴店、貴業界へ与えている影響、および2022年の物価の見通し

原油価格の上昇に伴う、物流コストの上昇、部品、油脂、消耗品の上昇での経費増、粗利の減少が2022年も続く可能性が強く、それに伴い価格の上昇が業界全体で進む。

ランニングコストや環境にやさしいハイブリット車、電動車の比率が増える。

#### 質問3 コロナ禍、物価上昇を除き、2022年の経済・経営環境で最も関心をもっていること

- 1、半導体不足の解消がいつになるか⇒新車及びナビ等の異常納期の解消
- 2、少子高齢化に伴う新車販売数の減少による、競争の激化
- 3、新車販売の電動化への加速
- 4、地球温暖化に伴う、自然災害の巨大化
- 5、地政学的リスクによる経済リスク

#### 質問4 2022年に小山市の施策で期待すること

- 1、少子高齢化が進む中での福祉車両等の購入やレンタルに対する助成金
- 2、電動化に伴う車輛購入への補助金

#### 質問5 小山地域の自動車販売の動向と見通し

半導体不足の影響による新車販売台数の減少に、コロナの再拡大による来場者数の減少も重なり、10-12月の回復傾向からメーカー各社が決算を迎える最大需要期の1-3月が前年同様苦戦している。

#### 質問6 自動車メーカーの生産台数削減が価格や売り上げに与えている影響

生産台数の削減により通常の納期より大きな遅れが発生し、1か月の在庫が少なく、売上は20%位通年で減少している。

また、新車納期遅れや売上台数減少に伴い、下取り車も減少し、中古車の減少を引き起こし、1台当たり単価の上昇につながっている。

### 流通業(小売業)(スーパーマーケット)

#### 質問1 新型コロナウイルス感染症の世界的な流行を踏まえ、2021年とくに秋以降の小山地域における貴社・貴店、貴業界の景気(売上等)の状況、および2022年の景気(売上等)の見通し

2021年秋から年始に至る期間では、安定して売上確保がはかれる。特に低迷していたファッション衣料関連も全体的に動きが見られた。

2022年、年始過ぎに至り、新型コロナウイルス感染者が日々これまでにない状況で増え始め、やや持ち直した客数・売り上げは夏場の期間の低迷した時期に近づきつつある。

#### 質問2 最近の物価上昇が貴社・貴店、貴業界へ与えている影響、および2022年の物価の見通し

原材料不足から食品の物価も徐々に上り始めている。プライベートブランドで凌いでいるものの期間限定で対応している。

#### 質問3 コロナ禍、物価上昇を除き、2022年の経済・経営環境で最も関心をもっていること

人件費高騰(経営圧迫)と人手不足(採用難)である。

#### 質問4 2022年に小山市の施策で期待すること

特になし

### 製造業(鋼材)

#### 質問1 新型コロナウイルス感染症の世界的な流行を踏まえ、2021年とくに秋以降の小山地域における貴社・貴店、貴業界の景気(売上等)の状況、および2022年の景気(売上等)の見通し

秋以降で一時的に感染が収まった時には人流や交通量が回復し、顧客先への訪問や仕入先等からの訪問も増え、売上やお客様の動きも上向き傾向であった。しかし年末以降のオミクロン株感染の急拡大により、業務に影響が出つつある。コロナ感染が終息すれば景気は回復すると考えているが、予断を許さない所である。製造業関連では半導体不足や部品不足などが解消出来れば、自動車製造なども復活していくと期待している。

## 質問 2 最近の物価上昇が貴社・貴店、貴業界へ与えている影響、および 2022 年の物価の見通し

鋼材価格の値上がりは2年越しで続いており、アルミや銅などの非鉄金属も高騰している。お客様には価格改定のお願いをしているが、価格転嫁が難しいお客様もいるため厳しい状況である。その他梱包資材や作業に使う皮手袋などの副資材も軒並み値上げされ、経費増に拍車がかかっている。2022 年も原油価格の高騰から工作機械に使われる潤滑油等の値上げが続いている。今後あらゆる物品の値上げにつながるのではないかと心配している。

## 質問 3 コロナ禍、物価上昇を除き、2022 年の経済・経営環境で最も関心をもっていること

国際情勢(ウクライナ危機)の状況いかんでは景気後退どころか不況に逆戻りまでありうると危惧している。

## 質問 4 2022 年に小山市の施策で期待すること

- ・コロナ対策
- ・コロナ開けでは景気浮揚策としてのイベント開催や振興策

## 質問 5 コロナ禍のサプライチェーンへの影響と対応策

物流に対してそれほど影響はなかった。営業活動や仕入れ先との交渉事も基本的には電話やオンラインを活用して影響は最低限ですんでいる。今後はオンラインでの活動をさらに増やしていくように取り組んでいく。

## 質問 6 貴社、貴業界の脱炭素化への取り組み

まださほど進んでいる状態ではない。自動車業界では急速にEVへの取り組みが進んでいると思うがまだ末端では具体的な変化は見られない。

## 製造業(鉄鋼)

## 質問 1 新型コロナウイルス感染症の世界的な流行を踏まえ、2021 年とくに秋以降の小山地域における貴社・貴店、貴業界の景気(売上等)の状況、および 2022 年の景気(売上等)の見通し

非常に悪い状態が続いており、2022 年度も同様に悪い見通しである。

## 質問 2 最近の物価上昇が貴社・貴店、貴業界へ与えている影響、および 2022 年の物価の見通し

特に燃料費の上昇が影響しており、2022 年度も同様と思われる。

## 質問 3 コロナ禍、物価上昇を除き、2022 年の経済・経営環境で最も関心をもっていること

半導体不足はいつ解消されるのか

## 質問 4 2022 年に小山市の施策で期待すること

コロナ禍前に行っていたイベントの再開

#### 質問 5 コロナ禍のサプライチェーンへの影響と対応策

コロナ禍によって海外の工場が閉鎖、休止となることによって輸入品価格に影響が出る状況を予測し早めに確保する。

#### 質問 6 貴社、貴業界の脱炭素化への取り組み

まだ具体的な行動はしていない。

#### 保険・金融業（銀行）

#### 質問 1 新型コロナウイルス感染症の世界的な流行を踏まえ、2021 年とくに秋以降の小山地域における貴社・貴店、貴業界の景気(売上等)の状況、および 2022 年の景気(売上等)の見通し

2021 年秋以降は、若干の回復傾向が見受けられたが、2022 年に入り、オミクロン株の拡大により、自店については業績拡大とはいかない状況である。今後においても横ばいの見通しである。

#### 質問 2 最近の物価上昇が貴社・貴店、貴業界へ与えている影響、および 2022 年の物価の見通し

自店に直接の影響は少ないが、取引先で価格転嫁ができない先は先々淘汰される可能性が高い。2022 年はインフレの見通しが強く、この流れにうまく対応する必要性は感じている。

#### 質問 3 コロナ禍、物価上昇を除き、2022 年の経済・経営環境で最も関心をもっていること

- ・カーボンニュートラル、SDGs などの世界的な取り組み
- ・DX、インボイス制度への各企業の取り組み

#### 質問 4 2022 年に小山市の施策で期待すること

- ・新たな雇用創出への取り組み
- ・農業分野への取り組み

#### 質問 5 昨年(2021 年)の企業の資金需要の動向と今後の見通し

コロナ関連の制度融資の充実により、各企業の資金繰りは落ち着きを持つことができたと考える。全国的にも倒産件数が低水準に推移したことからも、資金需要はそれなりにあったものと思われる。各企業に資金が行き渡った事、新たなコロナ関連制度融資が発生しない場合、資金需要は減少すると思われる。

#### 質問 6 FRB の政策転換が地方経済へ与える影響の見通し

- ・体力のない企業、業績が著しくない業界には重荷となる可能性はある。
- ・日銀もマイナス金利政策をやめて、世界と足並みを揃えないと日本の一人負けとなる可能性もありえる。

## 運輸業(タクシー)

### 質問 1 新型コロナウイルス感染症の世界的な流行を踏まえ、2021 年とくに秋以降の小山地域における貴社・貴店、貴業界の景気(売上等)の状況、および 2022 年の景気(売上等)の見通し

8 月から 10 月中旬までのコロナまん延防止措置中においては、コロナ禍前の 5 割減であったが、解除後は 3 割減までに回復し、12 月においては 1 割減まで戻ってきた。

2022 年については年明けからオミクロン株による新型コロナ感染により、コロナ禍前の 5 割減に逆戻りしており、感染が落ち着いても就業・生活パターンの変化により、コロナ禍前には戻らないと思われる(1~2割減)。

### 質問 2 最近の物価上昇が貴社・貴店、貴業界へ与えている影響、および 2022 年の物価の見通し

コロナにより利用者が減少し売上げが下がっている中、石油価格の上昇により燃料やタイヤの価格が上がり経営を圧迫している。

コロナの影響により製造業が停滞しており、すべての物が値上がりすると思われる。

### 質問 3 コロナ禍、物価上昇を除き、2022 年の経済・経営環境で最も関心をもっていること

- ・夏の栃木国体が有観客で実施できるか
- ・石油・天然ガス価格の動向(ロシアによるウクライナ紛争により価格の急上昇が予想される)

### 質問 4 2022 年に小山市の施策で期待すること

- ・コロナ禍後の人流の復活  
町おこし、イベント開催など

### 質問 5 タクシー業界からみた小山地域の景気状況と 2022 年の見通しと課題

コロナ禍における人流抑制によりイベント・集会の中止や飲食店の休業など非常に厳しい状態である。コロナが終息したとしてもテレワークやリモート会議などの就業、生活様式の変化により、人流が抑制され、コロナ禍前の状況には戻らないと思われる。

### 質問 6 GoTo トラベル事業への期待

GoTo トラベル事業が再開されるためには、コロナ感染がかなり収まった状況になった時、初めて実施ということであろう。人々が旅行、飲食、集会などに安心して参加できるような状況が必要となる。長いコロナとの戦いが終息して人々が思い切り動き出すときに、その事業が同時期に実施されることになる。そうなれば運送業界のみならず旅行業界、宿泊業、飲食業など、多種多様な業界に多大な影響を及ぼすこととなり、日本の経済はいつきに復活の道をたどれる事となると思う。

## ホテル・旅館業(ホテル)

### 質問 1 新型コロナウイルス感染症の世界的な流行を踏まえ、2021 年とくに秋以降の小山地域における貴社・貴店、貴業界の景気(売上等)の状況、および 2022 年の景気(売上等)の見通し

2021 年 10 月から感染者が減少し、会食の予約が入り始めた。しかし、12 月に入るとオミクロンの国内感染が広がり始めて、繁忙期にある忘新年会予約が相次いでキャンセルとなった。1 月後半には栃木県内にまん延防止措置が発令され、営業自粛となってしまった。2022 年 4 月以降の売上はコロナ前の 50%程度を見込んでいる。

2022 年 3 月の歓送迎会などの会食予約はコロナ禍前の 25%程度の予約となっている。

### 質問 2 最近の物価上昇が貴社・貴店、貴業界へ与えている影響、および 2022 年の物価の見通し

物価上昇による、外食離れと、材料費コスト増による収益悪化が懸念される。

### 質問 3 コロナ禍、物価上昇を除き、2022 年の経済・経営環境で最も関心をもっていること

賃金の上昇と求人倍率等、人材確保に懸念を感じている。また、物価上昇に伴う金利の上昇に注意している。

### 質問 4 2022 年に小山市の施策で期待すること

固定資産税特例措置の次年度継続

### 質問 5 最近の宿泊客の動向、見通しとその特徴

企業の出張及び、ゴルフなどのレジャー関係の宿泊及び、結婚式や法事などの出席者宿泊も減少している。最も大きく減少したのは、スポーツ関係の団体合宿等の宿泊となっている。

今後感染者が減少し、ゴールデンウィークにむけ、宿泊者が増加することを期待している。

### 質問 6 GoTo トラベル事業への期待

レジャーや里帰り宿泊等、ホテルの利用の起爆剤として大いに期待している。

## 不動産・住宅業

### 質問 1 新型コロナウイルス感染症の世界的な流行を踏まえ、2021 年とくに秋以降の小山地域における貴社・貴店、貴業界の景気(売上等)の状況、および 2022 年の景気(売上等)の見通し

分譲マンション等の取引額が増加しており、売上に関しては例年より増加傾向にある。

コロナウイルス感染拡大に伴い業務の延期や中止、従業員の感染による休業などの影響により売上が減少する可能性がある。

### 質問 2 最近の物価上昇が貴社・貴店、貴業界へ与えている影響、および 2022 年の物価の見通し

半導体不足によるリフォーム(給湯機、IH コンロ、トイレ等)の入荷時期が未定の事が多い。リフォームに関する材料費等が高騰する懸念がある。

### 質問3 コロナ禍、物価上昇を除き、2022年の経済・経営環境で最も関心をもっていること

無回答

### 質問4 2022年に小山市の施策で期待すること

空き家バンクに伴う補助金の見直し(増額)

### 質問5 小山地域の住宅建設(持ち家、分譲、貸家)の状況

実家(空家)を相続する方の相談が増えている。使用予定が無いが、維持管理(税金、枝木の手入れや除草)を懸念している。

少額の中古戸建を投資用として関東県内にお住まいのお客様からのお問合せも増えている。

### 質問6 コロナ禍における郊外への移住ニーズの増加といった需要の変化の状況

リモートワークを理由にする方や都市圏からの生活環境を変えたい(親族が北関東に居住しており小山市に縁も所縁もない)方など、県外からの移住者が一時的に増えた。

## 商工会議所

### 質問4 2022年に小山市の施策で期待すること

- ①コロナに対応した事業者向けの新たな支援制度の創設(資金繰り、補助金、給付金等)
- ②小山市共通商品券のプレミアム率を引き上げ並びに発行額の増額など思い切った景気対策の実施

### 質問5 商工会議所から見た小山地域の景気状況と見通し、及び地元企業の経営課題

#### 1)市内の景気動向について

##### ①売上高

緊急事態宣言、まん延防止重点措置の全面解除により全業種でやや改善したが、新型コロナウイルスのオミクロン株のかつてない感染拡大により特に、飲食・サービス業は客数が激減している。

##### ②採算

原材料や原油価格の高騰により製造原価が上昇しているが、価格に転嫁できないため利益が減少している。

##### ③資金繰り

コロナ禍での赤字累積や借入金の増加により「過剰債務」が懸念される。

##### ④従業員動向

全業種で「人手不足」傾向になっている。コロナ禍により人員確保が困難になっており雇用情勢は厳しい状況が続くと思われる。

#### 2)地元企業の経営課題

①コロナによる収益悪化により企業債務の返済猶予や借換えなどにより事業継続が困難になる。

②ポストコロナを見据えた中小企業、小規模事業者のデジタル活用による生産性向上。特にDXについては人材育成が課題。



- ③令和5年に導入される消費税インボイス制度への対応。本制度が導入された場合には免税業者は取引業者から回避される可能性がある。
- ④原油価格の上昇、原材料の高騰による収益悪化。

#### 質問 6 コロナ禍や物価上昇のもとでの商工会議所としての取り組み状況

コロナ禍への事業者支援を重点事業として捉え、中小・小規模事業者に対して事業を継続するための各支援策を活用した支援を行うとともに、経済活動を促進させるための事業に取り組んでいる。(実績数は12月末現在)

##### 1) 新型コロナウイルス感染症により影響を受ける事業者支援

- ①緊急事態宣言・まん延防止重点措置に係る事業者支援実績
  - ・指導実績数(延べ件数)950件
- ②専門家による個別相談会の開催
  - ・開催数 27回
- ③国の緊急支援策の申請支援
  - ・持続化補助金 19件
  - ・ものづくり補助 2件
  - ・事業再構築補助金 23件
- ④小規模事業者経営改善資金(マル経融資)による資金繰り支援
  - ・融資推薦額 9千4百80万円

##### 2) コロナ禍における経済活動の促進

- ①販路開拓支援
  - ・東京ギフトショーに出展 参加企業7件 商談成約件数 3件
  - ・越境ECテストマーケティング事業(北米アマゾンに出品)参加企業 5件
- ②新型コロナウイルス感染症で影響を受けた会員事業所のテイクアウトやデリバリー商品情報をホームページに掲載「おやまエールドット」の開設 参加店 42店舗

#### 小笠原教授のコメント

お忙しい中を当研究所のヒアリングにお応えいただき企業の皆様には大変感謝する。新型コロナウイルスの感染拡大は2021年度も収束することなく、地域経済に多大な影響を及ぼし続けていることがヒアリングにご協力いただいた企業の皆様の指摘から十分に理解できる。僅かに出口が見えつつあるという感触を持ちつつも、人流が回復し需要が戻り地域経済が回復基調に乗るためにはまだ時間がかかることも想定されるため支援策の充実、個別企業への影響の最小化は必須である。

加えて半導体不足や資源価格の高騰、更には年度末間近に国際紛争の問題に直面するなど世界規模での経済活動の激動化に北関東がどのように対応してゆくのか、企業の皆様の苦悩もまた深いものであることが察せられる。

ヒアリング内での課題として労働力確保や地域活性化が挙げられておりこれらに企業の関心が高いことがうかがわれる。上記施策については小山市に更なる検討を願うとともに、その取り組みについての実効性も求めてゆく必要がある。皆で頑張ることで地域の問題を解決できる時代は終わりが来ており、その施策が

地域に本当に必要で適切な対応かを検討し実行してゆくことが大切である。現在までの小山市の地方創生の諸事業についての評価並びに資源をより適切な施策に投入するために政策的な微調整を行う必要も出てくるであろう。

世界的な転換期に差し掛かっている中で、企業や行政の努力や施策だけではこれらの困難は乗り越えることが難しく、長期的なビジョンと理念をもった対応が地域的に求められる。それにより地域社会の持続性が確保できることだろう。白鷗大学としても経営学部、ビジネス開発研究所として地方自治体や経済団体とともに支援できる課題やテーマがあれば是非とも協力することを考えてゆきたい。

## 5. まとめ

最近の日本経済の動きを GDP 速報(2021 年 10-12 月期・1 次速報(2022(令和 4 年)年 2 月 15 日公表))でみると、令和 3 年の実質 GDP 成長率(平成 23 年暦年連鎖価格)は前年比 1.7%増となった。平成 30 年以来 3 年ぶりにプラス成長となった。令和 2 年の初頭から断続的に続く新型コロナウイルス感染症の流行の影響で経済社会活動が制約されているものの、一定の回復傾向はみられた。四半期別(季節調整済、前期比)でみると、令和 3 年 1~3 月-0.5%、4~6 月 0.6%、7 月~9 月-0.7%、10~12 月 1.3%となった。令和 3 年第 1 四半期、第 3 四半期の GDP 成長率のマイナスは、感染症流行期にあたり、まん延防止等重点措置等の経済活動を制約する政策がとられた影響であると考えられる。一方、令和 3 年第 2 四半期、第 4 四半期の GDP 成長率のプラスは感染症流行や医療体制にも落ち着きがみられたことによる景気回復を反映していると考えられる。いずれにせよ、令和 3 年の経済の状況は新型コロナウイルス感染症の流行の状況と密接に結びついているものであり、今後もこの傾向は継続するとみられる。

こうした状況のなか令和 3 年 11 月から 12 月にかけて実施した「小山市景気動向アンケート調査(令和 3 年度第 1 回)」の結果は、全国的に感染者数が低く抑えられていた時期であったこともあり、多くの項目で DI の上昇傾向がみられ、本調査開始以来最高の水準を記録するものもあった。ただし、令和 4 年 1 月中旬から、新型コロナウイルスの変異株で、より感染力の強いオミクロン株の流行により感染者数が急増しており、1 月から 3 月にかけて栃木県内でもまん延防止等重点措置が実施されている。今回のアンケート調査は、このような感染症流行期以前の状況を反映していることにも留意する必要があるだろう。

アンケート調査の後、令和 4 年 2 月に実施したヒアリング調査の結果をみると、景気の現状については、業種や企業によって、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行による負の影響を受けている、負の影響から回復傾向にあったが年始からオミクロン株感染拡大により再び低迷、好調だが今後の負の影響が心配との声がみられた。負の影響の理由として、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行による影響による物価の上昇、物流コスト増、経費増、粗利の減少、半導体不足、原材料不足、納期の遅れ、価格転嫁の難しい顧客の存在、需要の縮小、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う業務の延期や中止、従業員の感染による休業の影響といった要因が挙げられ、コロナ禍で海外の工場が閉鎖となりうることから予測と対応が必要との声もあった。令和 4 年の見通しはアンケート調査の 12 月時点の結果と比較すると、全体として上記のような負の影響から厳しいとの声が多く、国際情勢(ウクライナ危機)いかんでは不況に逆戻りまでありうるとの見方もあったが、横ばい、感染症の収束により需要が拡大することを期待するとの声もあった。

以上のように、令和 3 年下半期(7~12 月期)の小山市の景況感をみると、令和 2 年初頭から続く新型コロナウイルス感染症流行による影響は引き続きみられるものの、アンケート調査の DI では本調査開始以来最高の水準を記録するなど、部分的な回復傾向はみられる。しかし、異なる時期に行われたヒアリング調査の結果を合わせて考えると、景況感は感染症の流行状況や国際情勢に左右されるものとなっており、この傾向は今後も継続するものとみられる。また、新型コロナウイルス感染症流行に起因して、世界的に物価上昇の兆候が見られている。令和 4 年 1 月の企業物価指数は 109.5(2015 年平均=100、速報値)となり、前年同月から+8.6%となり、物価の上昇傾向が続いている。アメリカの中央銀行にあたる FRB(連邦準備制度理事会)は、令和 3 年から 4 年にかけて金融緩和と政策から引き締め政策へと、物価上昇を抑える方向に政策を転換している。この政策転換が景気に与える影響が懸念されており、アメリカ経済、ひいては日本

経済に与える影響を注視していく必要もあるだろう。令和 4 年 2 月 24 日、ロシアはウクライナに対し軍事侵攻を開始した。この軍事侵攻に対し、国際社会はロシアに対し経済制裁を行う方針がとられている。この軍事侵攻や経済制裁の副作用により、物流の混乱や、物価の上昇が予測される。

## (参考資料)

### i. 小山市景気動向アンケート調査票(令和3年度第2回)

#### 小山市景気動向アンケート調査 調査票 (令和3年度第2回)

(2021年11-12月現在の状況でお答え下さい。5ページ目までご記入のほどよろしくお願い申し上げます。)

**質問1** 現在の小山市の景気についての質問です。あなたの日々の仕事やお客様の様子からみて2021年上半期(1~6月期)の景気は良いと思いますか、悪いと思いますか。(水準)

- ① 良い ② やや良い ③ どちらともいえない ④ やや悪い ⑤ 悪い

**質問2-1** 質問1のご回答の理由として、どのような点に着目されましたか。もっとも適切と思われるものを一つ選んでください。「⑥それ以外」の場合は、その理由を( )内に記入して下さい。

- ① 小山市の人出の状況 ② お客様や取引先の様子(購買態度など)  
③ 物価の動き ④ 雇用の状況 ⑤ 周辺地域の様子  
⑥ それ以外( )

**質問2-2** 質問2-1の回答内容について具体的に説明してください。

**質問3** 小山市の景気の先行きについての質問です。あなたの日々の仕事やお客様の様子からみて、2022年上半期(1~6月期)の景気は、2021年下半期(7~12月期)と比べて良くなると思いますか、悪くなると思いますか。(将来の方向)

- ① 良くなる ② やや良くなる ③ 変わらない ④ やや悪くなる ⑤ 悪くなる

**質問4** 質問3でそのように回答した理由を教えてください。

**質問5** 貴店(貴社)の売上げ等からみて、貴業界の小山市における2021年下半期(7~12月期)の需要は季節的な要因を除いて、2021年上半期(1~6月期)にくらべて売上金額で増加したと思いますか。

- ① 増加した ② やや増加した ③ 変わらない ④ やや減少した ⑤ 減少した

**質問 6-1** 質問 5 でそのように回答された理由として、もっとも適当と思われるものを一つ選んでください。

(家計消費向け取引(B to C)の場合)

- ① 来客数の動き ② 販売量の動き ③ 客単価の動き ④ 販売価格の動き  
⑤ お客様の様子 ⑥ 競争相手の様子 ⑦ それ以外 ( )

(企業向け取引(B to B)の場合)

- ① 受注量や販売量の動き ② 受注価格や販売価格の動き ③ 取引先の様子  
④ 競争相手の様子 ⑤ それ以外 ( )

**質問 6-2** 質問 6-1 の回答内容について具体的に説明してください。

**質問 7** 貴店(貴社)の売上げの動き等からみて、貴業界の小山市における 2022 年上半期 (1~6 月期) の売上高 (生産高) の見通しをお伺いします。2021 年下半期 (7~12 月期) と比べて、季節的要因を除いて、2022 年上半期 (1~6 月期) の売上高 (生産高) は増加すると思いますか。(売上高の先行き)

- ① 増加する ② やや増加する ③ 変わらない ④ やや減少する ⑤ 減少する

**質問 8** 質問 7 でそのように回答した理由を教えてください。

**質問 9** 貴店(貴社)の販売価格の動き等からみて、貴業界の小山市における 2022 年上半期 (1~6 月期) の販売価格の見通しをお伺いします。2021 年下半期 (1~12 月期) と比べて、2022 年上半期 (1~6 月期) の販売価格はどうなると思いますか。(価格見通し)

- ① 上昇する ② やや上昇する ③ 変わらない ④ やや低下する ⑤ 低下する

**質問 10** 貴店(貴社)の雇用 (従業員) の状況等からみて、貴業界の小山市における 2022 年上半期 (1~6 月期) の雇用状況の見通しをお伺いします。2021 年下半期 (7~12 月期) と比べて、2022 年上半期 (1~6 月期) の雇用状況はどうなると思いますか。(雇用見通し)

従業員が

- ① 不足する ② やや不足する ③ 横ばい ④ やや過剰となる ⑤ 過剰となる

**質問 11** 貴店（貴社）あるいは貴業界における資金繰りの状況をお伺いします。貴店（貴社）の2021 下半年期（7～12 月期）における資金繰りは、2021 年上半期（1～6 月期）にくらべて改善しましたか、悪化しましたか。

- ① 改善した ② やや改善した ③ どちらともいえない ④ やや悪化した ⑤ 悪化した

**質問 12** 質問 11 でそのように回答した理由をあげてください。（あてはまるものすべてに○をつけてください、複数回答可）

- ① 売上高の変化 ② 設備資金需要の変化 ③ 仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化  
④ 人件費の変化 ⑤ 金融機関の貸出態度の変化 ⑥ 金融政策、金利の変化  
⑦ その他（具体的に: \_\_\_\_\_ )

**質問 13** 貴店（貴社）における令和 3 年度の主な従業員の賃金等の状況をお伺いします。（あてはまるものすべてに○をつけてください、複数回答可）

- ① ベースアップを実施 ② ボーナスの実施 ③ 定期昇給を実施 ④ ボーナスの増額  
⑤ ボーナス以外の手当の増額 ⑥ 定期給与・ボーナス等の変更なし ⑦ 定期給与の引下げ  
⑧ ボーナスの減額 ⑨ ボーナス以外の手当の減額 ⑩ その他（ \_\_\_\_\_ )

**質問 14** 質問 13 でそのように回答した具体的内容・理由を記入してください。

**質問 15** 新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)に関して、2021 年下半年期（7～12 月期）には貴社（貴店）、貴業界はどのような影響を受けましたか。質問 15-1～3 に回答してください。

（あてはまるものすべてに○をつけてください、複数回答可）

**質問 15-1** 供給面への影響

- ① コロナ禍前に比べ一部商品の仕入が困難なままだ ② 商品の仕入の状況はコロナ禍前に戻った  
③ コロナ禍前に比べ原材料・部品の入手が困難なままだ  
④ 原材料・部品の入手の状況はコロナ禍前に戻った ⑤ コロナ禍前に比べ供給能力が増加した  
⑥ 供給能力はコロナ禍前の状況に回復した ⑦ 供給能力はコロナ禍前の状況に戻っていない  
⑧ もともとコロナ禍の影響はほとんどない  
⑨ その他(具体的に: \_\_\_\_\_ )

**質問 15-2 営業・勤務形態等への影響**

- ① コロナ禍前に比べ営業時間の短縮・変更等を余儀なくされたままだ
- ② コロナ禍前の営業時間に戻った ③ コロナ禍前に比べ従業員の勤務に困難が生じたままだ
- ④ 従業員の勤務についてコロナ禍前の状態に戻った
- ⑤ コロナ禍をきっかけにテレワーク等新たな勤務形態を採用し続けている
- ⑥ 勤務形態はコロナ禍前のものに戻った ⑦ コロナ禍前と比べキャッシュレス決済の導入が進んだ
- ⑧ コロナ禍前と比べ業態転換が進んだ ⑨ もともとコロナ禍の影響はほとんどない
- ⑩ その他(具体的に: \_\_\_\_\_ )

**質問 15-3 需要への影響**

- ① コロナ禍前に比べ需要全体が減少した ⑩ コロナ禍前に比べ一部商品の需要が減少した
- ③ 全体的にコロナ禍前の状況に需要がほぼ回復した ④ コロナ禍前に比べ一部商品の需要が増加した
- ⑤ コロナ禍前に比べ需要が全体的に回復した ⑥ もともとコロナ禍の影響はほとんどない
- ⑦ その他(具体的に: \_\_\_\_\_ )

**質問 16** 質問 15 でそのように回答した具体的内容・理由を記入して下さい。



[フェースシート]

小山市経済動向実態調査以外の目的には一切使用いたしませんので、下記の項目にご記入いただきますようお願い申し上げます。

1. 貴店(貴社)のお名前

2. 貴店(貴社)の主とする業種(小山市にある事業所(店舗)で取り扱っている業種)は何ですか。最もあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

- ① 流通業(小売業) ② 製造業 ③ 金融・保険業 ④ 運輸業 ⑤ ホテル・旅館業
- ⑥ 飲食業 ⑦ 通信・放送業 ⑧ 不動産・住宅業 ⑨ サービス業 ⑩ 印刷業
- ⑪ その他(具体的に: \_\_\_\_\_ )

3. 貴店(貴社)の従業者数(パート・アルバイトを含む) (小山市の事業所(店舗)における従業者)

						人
--	--	--	--	--	--	---

4. 貴店(貴社)の年間売上げ (小山市の事業所(店舗)における売上げ(概数で結構です) )

				億					万円
--	--	--	--	---	--	--	--	--	----

5. 貴店(貴社)の小山市の店舗 (事業所)における売上げのうち、小山市内の企業、消費者からの需要の割合はおよそどのくらいですか。一つ選んで○をつけてください。

- ① 80~100%    ② 60~79%    ③ 40~59%    ④ 20~39%    ⑤ 0~19%

6. 調査の回答に関する連絡先

ご担当者名:

ご住所:

電話番号:

E-mail:

(お忙しいところご協力どうもありがとうございました。ご回答いただきました方には、次回調査時に今回の調査結果とともに、些少なからクオカード (1000 円) をお送りいたします。)

「小山市経済動向実態調査」  
委託元 小山市経済部商業観光課  
調査受託 白鷗大学ビジネス開発研究所  
電話 : 0285-20-8900(大学・代表)  
          0285-20-8125(研究所)  
Fax : 0285-22-8989  
調査担当 (西谷、八尾、櫻庭)

ii. 小山市景気動向アンケート調査(令和3年度第2回)の回答一覧

選択回答 質問1~10

No.	質問1	質問2-1	質問3	質問5	質問6-1 (BtoC)	質問6-1 (BtoB)	質問7	質問9	質問10
1	2	2	3	3	1	3	4	2	3
2	3	2	2	3	7	-	2	3	3
3	2	2	2	2	1	-	2	3	3
4	5	2	2	5	5	1	2	3	3
5	5	2	2	2	1	1	1	2	2
6	2	1	2	4	-	3	3	2	3
7	4	2	3	4	1	-	3	2	3
8	5	2	5	5	1	1	4	4	1
9	4	1	2	2	-	1	2	1	1
10	3	1	2	3	-	3	2	3	2
11	4	2	3	4	5	3	4	3	3
12	3	2	2	2	-	1	2	2	3
13	3	2	2	-	5	2	3	3	3
14	3	1	4	4	3	4	5	4	2
15	4	1	2	3	1	-	2	2	2
16	4	2	4	4	1	3	3	3	3
17	3	2	3	3	-	1	3	3	3
18	4	5	2	3	5	2	2	2	3
19	4	5	-	3	5	3	3	3	3
20	4	1,2	3	5	1	1	4	3	3
21	3	2	2	3	2	1	2	2	3
22	4	1	2	2	1	1	2	2	3
23	3	2	3	4	7	-	3	3	3
24	5	2	2	2	-	1	2	3	3
25	4	1	2	3	-	1	2	2	3
26	3	-	2	2	1	-	2	2	3
27	3	2	3	3	2	1	3	3	3
28	3	2	3	4	-	1	2	2	3
29	3	2	3	3	1	3	3	3	3
30	5	2	2	3	2	4	2	3	3

31	4	1	2	2	1	-	2	3	3
32	5	2	3	5	1	1	4		3
33	2	5	2	2	-	5	3	3	3
34	3	4	3	4	-	2	3	2	3
35	2	2	4	3	1	3	4	2	2
36	5	2	1	3	-	1	2	2	1
36	3	-	2	3	2	-	3	3	3
38	3	1	1	3	-	1	3	4	3
39	3	3	2	3	2	1	3	3	2

選択回答 質問 11～15

No.	質問 11	質問 12	質問 13	質問 15-1	質問 15-2	質問 15-3
1	3	1	6	8	8	5
2	3	-	3,5,8	1,7	4	1
3	2	1,7	5	4	2	3
4	5	3,7	6	7	2,7	1
5	2	1	8	7	2,3	-
6	5	3	3,6	3	9	6
7	4	7	10	8	9	-
8	4	1,4	1	7	3	1
9	2	1,4	2,4	4,6	4	2
10	3	1	2,3	2	4,6	5
11	3	1,3	7,9	-	1,3	1
12	3	1	2,3	1	3,5	2
13	3	1	-	7	2	1
14	2	4	7	7	2	1
15	2	1	6	8	1	1
16	4	1,3	6	2	2	2
17	2	6	-	1	1	4
18	3	7	10	2	10	1
19	2	1	2,3,4	8	9	6
20	3	4	1	4	10	1
21	3	3	2,3	4	-	1
22	3	1,3,4	2,3	1	1,7	2
23	3	3	2,3	8	9	2
24	4	1	1,2	3	9	1
25	1	7	3,4	8	5	3
26	3	3	10	8	2,7	3
27	2	3	4,5	6	4	3
28	3	1,3	2,3	3	5	1
29	4	3	6	9	2	2
30	2	1	8	7	1	1
31	3	1,3,4	6	7	2,4,7	5
32	3	1,3	7	1,3,7	3	1,4
33	2	1	1	3	9	3
34	4	3	2,3	8	9	6
35	3	-	2,3,4	1	2,4,5	4

36	3	1,3	8	9	4	1
36	3	1	6	9	1,5	-
38	2	2	1,8	8	9	6
39	2	7	6	8	2	5

記述回答 質問 1、2

No	質問1	質問 2-1	質問 2-2
1	2	2	
2	3	2	販売台数などから
3	2	2	客数お買い上げ金額の増加
4	5	2	
5	5	2	出張者の減少、飲食の利用人数制限及び時短営業による減少
6	2	1	近所のスーパーなどで人出が増えた
7	4	2	(理容師)技術者が高齢なこともあり、客が少なくなったためとも思われる。
8	5	2	
9	4	1	
10	3	1	
11	4	2	コロナ禍の影響でまだ得意先の飲食店等にお客がもどってこない
12	3	2	コロナ禍の影響
13	3	2	車の販売がおもわしくないのでは
14	3	1	
15	4	1	コロナ禍の為
16	4	2	来客数が少ない
17	3	2	注文が少ない
18	4	5	コロナのために行事や大会が行われない
19	4	5	当社取引先(特に飲食店関係)の状況が良くない
20	4	1, 2	来場者数が 10%前年比減。売上 5%減
21	3	2	以前(コロナ流行前)の状況に戻ったわけではないが、コロナ流行ピーク時よりは、徐々に回復傾向にあるように感じる。
22	4	1	コロナによる駅利用者の減少
23	3	2	人出・車は増えている様子ですが、購買に結びついていない
24	5	2	仕事の依頼が少ない為
25	4	1	飲食業界の不振
26	3	-	新型コロナの影響大きく、ファッション関連低迷
27	3	2	
28	3	2	メンテナンス需要は例年通りだが、新しい設備投資が少なく感じる
29	3	2	忙しいという話を聞かない
30	5	2	1月2月のコロナ非常事態宣言以降、人の移動が抑制され、特に夜の動きが悪くなった。
31	4	1	

32	5	2	飲食店を取り巻く状況はコロナの影響により、取引先(魚市場・野菜市場・食材卸し・酒屋を含め)非常に厳しい状態です。
33	2	5	荒井商事様関連のヤードが増えてきたから
34	3	4	直接雇用の求人に対しての応募の件数は増えてきているが、派遣会社からの人材の紹介は止まっている為。
35	2	2	お客様からのお引合い件数の伸び+単価増
36	5	2	受注減及び発注の遅れ
36	3	-	
38	3	1	コロナワクチン接種も始まり、昨年より人流も回復してきているから
39	3	3	

記述回答 質問 3、4

No	質問 3	質問 4
1	3	
2	2	コロナの波は来ると思うが、大きな影響を受けないと思う。経済対策も効果が出ると思う。
3	2	今までの状況が続けばということで
4	2	コロナでストップしていた経済が少しずつ動く様子があるから
5	2	飲食制限解除(夜間)
6	2	コロナの影響が少なくなりつつあるため
7	3	全体に見て、そう思う。
8	5	オミクロン等の新型コロナ禍の発生が続いて来ると思うため
9	2	コロナウイルスの沈静化
10	2	
11	3	コロナ禍の動きにすべて左右される
12	2	コロナ禍の落ちつき(収束の兆しみてきたか?)
13	2	車の販売もよくなっていくと思うので
14	4	
15	2	コロナが減少し人の動きが増えるため
16	4	オミクロン株の影響がでるのではないだろうか。
17	3	ペーパーレス可が増えたともいえるが注文が少ない
18	2	大会や試合が行われるようになると思います。
19	-	現状でコロナの感染が減少していることから、人の動きが活発になると思われることから
20	3	変化なし
21	2	ワクチン接種が進み、感染者が減ることで人流が活発になり、消費も増えるのではと思われる。
22	2	コロナ対策の普及(ワクチン・感染対策意識の向上等)
23	3	高齢化が大変気になる。消費に結びつかない。医療に特化しすぎ。
24	2	コロナの状況が落ち着き、人・物流の流れが出てくると思われるから
25	2	COVID-19 の収束
26	2	新型コロナの発症落ち着き客数増加
27	3	
28	3	同上
29	3	コロナは落ち着きを見せているが、消費が急拡大するとは思えない
30	2	コロナワクチン接種が進み以前の生活パターンに戻りつつある。
31	2	コロナが落ち着いてきたかたら



32	3	<p>忘年会の予約状況がコロナ前と比べて一変しました。20人以上の忘年会はまったくありません。学校関係・お役所関係の忘年会も以前は沢山ありましたが、今は1件もありません。少人数でのご予約ばかりです。それでも少人数でも来店して下さるのはありがたいです。</p> <p>大きい会社を中心に会食の自粛や会食の人数制限が出ているそうです。5人以上、6人以上の会食はダメな会社のほうが多いです。先月(11月)に地元の地銀に勤務する中の良い友人と話す機会があったのですが、栃木県内の建設業関係以外の会社はほとんどの会社が赤字だそうです。</p>
33	2	同上
34	3	依然としてコロナウイルスの影響が続くと思われる為
35	4	資材の高騰と供給不良の影響
36	1	遅れていた工事案件が決まった
36	2	コロナの回復
38	1	コロナ接種を済ませた人が内向から外交へマインドが変化している。
39	2	昨年が悪すぎたから

記述回答 質問 5、6-1(BtoC)

No	質問 5	質問 6-1(BtoC)	質問 6-1(BtoC)その他
1	3	1	
2	3	7	製品納期の動向が遅い
3	2	1	
4	5	5	
5	2	1	
6	4	-	
7	4	1	
8	5	1	
9	2	-	
10	3	-	
11	4	5	
12	2	-	
13	-	5	
14	4	3	
15	3	1	
16	4	1	
17	3	-	
18	3	5	
19	3	5	
20	5	1	
21	3	2	
22	2	1	
23	4	7	プレミアム商品券の扱い
24	2	-	
25	3	-	
26	2	1	
27	3	2	
28	4	-	
29	3	1	
30	3	2	
31	2	1	
32	5	1	
33	2	-	
34	4	-	

35	3	1	
36	3	-	
36	3	2	
38	3	-	
39	3	2	

記述回答 6-1(BtoB)、6-2

No	質問 6-1 (BtoB)	質問 6-1 (BtoB)その他	質問 6-2
1	3		
2	-		半導体不足やコロナ禍の糾合などの影響をうけての製造メーカー及び部品供給の課題あり。
3	-		コロナがなんとなく沈下に向いているから気持的に
4	1		
5	1		親族等による会食の増加、企業宿泊研修の再開
6	3		需要が減少しているように感じる
7	-		
8	1		お客様の減少
9	1		6月以降売上額の増加が見られた
10	3		
11	3		コロナ禍で得意先が規制で休業や時短の可能性がある
12	1		若干、上向きの傾向あり
13	2		
14	4		
15	-		売上の停滞
16	3		来客数、受注数が減少した
17	1		今まで使用していた商品が動かず変わりの物もない
18	2		商品価格の上昇(値上げ)
19	3		
20	1		来場数の減少
21	1		
22	1		感染状況と反動消費
23	-		下期は商品券の取扱量がなくなった。
24	1		2021年10月から前年同月比の売上が100%を超えてきている為
25	1		飲食業界を見ても取り組み方法によって差が出ています。
26	-		下期後半にファッション関連需要伸びる
27	1		
28	1		材料納期の長期化の影響
29	3		顧客の様子に変化なし
30	4		8月・9月とコロナによる非常事態宣言があり、上半期と同じように需要が減少した。
31	-		来客が増えてきた

32	1		来客数の減少・会合など人が集まる事が減少しています。10月、11月は例年ですと(土曜・日曜)は七五三の後の会食のお客様が沢山お越しになるのですが、今年は非常に少なかったです。
33	5	新商品の受注状況が増えた	
34	2		金属素材の価格が大きく高騰している為
35	3		客反応数、単価ともに変化はない
36	1		工事数、受注額が同じくらい
36	-		
38	1		建設業界においては、幸いなことにコロナの影響は最小限で済んでいるから
39	1		良い要因もあるし、悪い要因もある

記述回答 質問 7、8

No	質問 7	質問 8
1	4	
2	2	コロナ禍を脱出しつつある。
3	2	その様に努力する
4	2	質問4と同じ
5	1	コロナ感染者の減少により、企業活動が活発化するため
6	3	契約量は変わらない為
7	3	よくわからない。
8	4	全体的の人の動きの減少
9	2	引き続き好調な顧客があるため
10	2	
11	4	すべてコロナ次第
12	2	コロナ禍の落ちつきに期待
13	3	
14	5	
15	2	コロナが落ち着くと考え
16	3	先の見通しが立たない
17	3	このまま続きそうです
18	2	少しは増加しなければ困ります
19	3	顧客数が現在と変わらないと思われる
20	4	来場数の減少
21	2	ワクチン接種率の上昇と、感染者数の減少に伴い、人流が増え、消費も増えるのではないかと思われるため。
22	2	質問4と同回答
23	3	
24	2	質問4の回答と同じで、コロナ次第と言える。資材不足が懸念されるため、「やや増加」か「変わらない」になるのでは？
25	2	
26	2	上半期前半は増加後半は不明(コロナの影響次第)
27	3	
28	2	コロナの収束、材料の安定供給
29	3	上昇要因が見当たらない
30	2	コロナの3回目の予防接種も始まり、コロナ感染者数も落ち着き、人の動きも出てくると思う。
31	2	

32	4	コロナの影響により会社関係、学校関係、お役所など会食の自粛や会食の人数制限が出ているため。
33	3	
34	3	変動要因が見当たらない為
35	4	供給不良の影響
36	2	大型工事案件の受注による
36	3	
38	3	大手ゼネコンの直近の決算発表で落ち込みが見られ、今後の受注単価に影響される懸念があるが、今のところ不透明である。
39	3	

記述回答 質問 11、12

No	質問 11	質問 12	質問 12 その他
1	3	1	
2	3	-	
3	2	1, 7	国、県、市からの金利補助
4	5	3, 7	全体的に 10~15%仕入れ価格が高くなってしまった。
5	2	1	
6	5	3	
7	4	7	質問 2-2 の通りと思う
8	4	1, 4	
9	2	1, 4	
10	3	1	
11	3	1, 3	
12	3	1	
13	3	1	
14	2	4	
15	2	1	
16	4	1, 3	
17	2	6	
18	3	7	借金はありません
19	2	1	
20	3	4	
21	3	3	
22	3	1, 3, 4	
23	3	3	
24	4	1	
25	1	7	設備投資を控え内部保留を増やしたため。
26	3	3	
27	2	3	
28	3	1, 3	
29	4	3	
30	2	1	
31	3	1, 3, 4	
32	3	1, 3	
33	2	1	
34	4	3	
35	3	-	



36	3	1, 3	
36	3	1	
38	2	2	
39	2	7	補助金

記述回答 質問 13、14

No	質問 13	質問 13 その他	質問 14
1	6		
2	3, 5, 8		
3	5		小売業ではボーナスベースアップ等はパートの方等には出ずのは大変です。
4	6		
5	8		売上高の減少、収益の悪化
6	3, 6		夏のボーナスは令和 2 年度実績での支給で増額したが、冬のボーナスは令和 3 年度実績予測の為減額となる。
7	10	ボーナスなし	収入減のため
8	1		良い人材の確保のため
9	2, 4		収益が改善したため
10	2, 3		
11	7, 9		雇用調整助成金でなんとか雇用をつないでいるので、ボーナスどころの話ではない
12	2, 3		業績の停滞
13	-		
14	7		
15	6		売上高の減少の為
16	6		なんとか維持しています
17	-		毎度何もしてもらっていません…
18	10	1 人親方です	
19	2, 3, 4		業績が順調であり定期昇格、賞与の増額を実施した
20	1		月給 3%UP
21	2, 3		給与規定に基づいての支給
22	2, 3		前年並みで実施
23	2, 3		投資の効率が上がったので
24	1, 2		コロナ禍で業績は悪化し、頑張っ乗り越えていけないといけない中、給料の面で下げることはできないと判断したため。
25	3, 4		
26	10	最低賃金の上昇	最低賃金の上昇(栃木県)
27	4, 5		
28	2, 3		評価制度による賃金の反映を実施
29	6		
30	8		コロナ禍の中、徐々に売上げが増えてきているが、まだコロナ禍前の売上げからすると、2 割減となっている為

31	6		なるべくげんがくしないように、売上げが落ちた時も給付金等で支払った。
32	7		
33	1		
34	2, 3		景気は良くないが、従業員のモチベーション維持の為、実施しました。
35	2, 3, 4		増収増益の配分
36	8		売上高減による
36	6		
38	1, 8		昨年の業績に比べ、利益面で減少し、ボーナスに反映されたから。
39	6		

記述回答 質問 15

No	質問 15-1	質問 15-1⑨その他	質問 15-2	質問 15-2 ⑩その他	質問 15-3
1	8		8		5
2	1, 7		4		1
3	4		2		3
4	7		2, 7		1
5	7		2, 3		
6	3		9		6
7	8		9		
8	7		3		1
9	4, 6		4		2
10	2		4, 6		5
11	-		1, 3		1
12	1		3, 5		2
13	7		2		1
14	7		2		1
15	8		1		1
16	2		2		2
17	1		1		4
18	2		10	個人営業の為従来通りです	1
19	8		9		6
20	4		10	クラフトビール未来参入	1
21	4		-		1
22	1		1, 7	1は一部	2
23	8		9		2
24	3		9		1
25	8		5		3
26	8		2, 7		3
27	6		4		3
28	3		5		1
29	9	供給面は変わらないが、取引先の信用不安拡大	2		2
30	7		1		1
31	7		2, 4, 7		5
32	1, 3, 7		3		1, 4
33	3		9		3

34	8		9		6
35	1		2, 4, 5		4
36	9	製造に関してはコロナ禍の影響はほとんどない。受注が減少したため、仕入れも減少(2021年下半期は資材の高騰の影響のほうが大きい)	4		1
36	9	商品供給は関係ない	1, 5		
38	8		9		6
39	8		2		5

記述回答 質問 16

No	質問 16
1	
2	
3	お客様の来店回数が戻ってきた。
4	
5	
6	受注契約量はコロナ禍関係なくほぼ例年通りであった。
7	
8	人の動きの減少のため
9	
10	
11	アルコールが目の仇にされ、得意先の休業や廃業などにより、これから先も非常に厳しい状況が続くと予想される。
12	
13	
14	
15	来客数の減少
16	いちばんひどい状況は過ぎたと思いますが、まだ影響が残っている気がします。
17	一部の業種では忙しくなっている様で、それに使用する商品の受注は回復している。
18	全体の動きが減少しています。
19	
20	青果卸売の休業など
21	イベント等の中止により受注量が減少した。
22	前年実績よりは良いが、2019年レベルまでは届かず
23	
24	客先の生産が低下している為、荷物が出ない。
25	海外でのコロナ禍によるリサプライチェーンに影響が生じ、一部の商品滞りが見られます。また、特に北米向け海上運賃の10倍に及ぶ高騰によって経営が圧迫されはじめました。
26	下期後半より客数の伸びが回復する。
27	
28	納期対応が難しくなった
29	・「ゼロゼロ融資」が終了し、運転資金需要減少。 ・設備投資も少ない
30	コロナ禍により、人の生活様式が変化し外出が減少した。仕事においてもテレワークやズーム会議など、人が集まる事が少なくなった。

31	まだ元通りではないが、久し振りの来客が戻ってきた。
32	お客様の来客数・来店数は減少して、依然厳しい状況ですが、値段の良いテイクアウトや配達向けの幕の内弁当やお寿司など、会議用(会議の後の食事)、お子様(七五三)などのお祝い用や法事用の値段の良いお弁当など、お寺さんに直接配達するなど、テイクアウトや配達は多いです。
33	
34	当社主力製造品目が農業機械であり、部品等の多くが国内調達の為。
35	当社事業範囲の住宅リフォームについては、テレワークや時短などの中で家で過ごす時間の増加に伴い、住宅の環境改善のニーズは大きな高まりを見せた。お庭の改修は特に高いニーズを示していた。
36	受注減により、仕事量が30-40%減少。現在は通常の状態に戻ってきているが、全体としては(見通しは)受注量は下降ぎみとなる予想。
36	
38	建設業界事体が、コロナの影響を受けにくいと思われるから。
39	

### iii. 小山市景気動向アンケート調査(時系列データ)

#### 質問 1 小山市の景気の現状(水準)

				良い	やや良い	どちらともいえない	やや悪い	悪い	無回答	DI
今回	令和	3年	7~12月	0.0	12.8	41.0	28.2	17.9	0.0	37.2
前回		3年	1~6月	0.0	8.7	19.6	60.9	10.9	0.0	31.5
前々回		2年	7~12月	0.0	9.1	13.6	43.2	34.1	0.0	24.4
第36回		2年	1~6月	0.0	0.0	6.5	28.3	65.2	0.0	10.3
第35回		元年	7~12月	0.0	11.8	35.3	45.1	5.9	2.0	38.5
第34回		元年	1~6月	2.2	10.9	47.8	37.0	0.0	2.2	44.5
第33回	平成	30年	7~12月	2.2	24.4	55.6	13.3	4.4	0.0	51.6
第32回		30年	1~6月	0.0	31.6	55.3	10.5	0.0	2.6	55.4
第31回		29年	7~12月	0.0	32.6	58.1	4.7	4.7	0.0	54.7
第30回		29年	1~6月	0.0	17.0	59.6	19.1	4.3	0.0	47.3
第29回		28年	7~12月	0.0	14.6	47.9	31.3	6.3	0.0	42.7
第28回		28年	1~6月	0.0	9.3	64.8	20.4	5.6	0.0	44.5
第27回		27年	7~12月	0.0	21.7	56.5	21.7	0.0	0.0	50.0
第26回		27年	1~6月	0.0	22.4	49.0	20.4	8.2	0.0	46.4
第25回		26年	7~12月	0.0	10.9	50.0	32.6	6.5	0.0	42.7
第24回		26年	1~6月	2.0	16.0	54.0	16.0	8.0	4.0	46.9
第23回		25年	7~12月	2.0	28.6	49.0	16.3	4.1	0.0	52.0
第22回		25年	1~6月	0.0	18.5	48.1	31.5	1.9	0.0	45.8
第21回		24年	7~12月	0.0	4.1	44.9	34.7	16.3	0.0	34.2
第20回		24年	1~6月	0.0	14.6	29.2	43.7	12.5	0.0	36.7
第19回		23年	7~12月	1.8	9.2	25.5	45.5	18.0	0.0	32.8
第18回		23年	1~6月	0.0	1.9	15.4	50.0	30.8	1.9	22.0
第17回		22年	7~12月	0.0	6.7	33.3	40.0	20.0	0.0	31.7
第16回		22年	1~6月	0.0	10.4	27.1	39.6	22.9	0.0	31.3
第15回		21年	7~12月	0.0	2.1	4.2	41.7	52.0	0.0	14.1
第14回		21年	1~6月	0.0	1.8	1.8	38.6	57.8	0.0	11.9
第13回		20年	7~12月	0.0	0.0	4.3	36.2	59.5	0.0	11.2
第12回		20年	1~6月	0.0	2.2	13.3	66.7	17.8	0.0	25.0
第11回		19年	7~12月	0.0	0.0	38.3	53.2	8.5	0.0	32.5
第10回		19年	1~6月	0.0	23.1	45.2	27.9	3.8	0.0	46.9
第9回		18年	7~12月	0.0	20.8	35.4	33.3	10.5	0.0	41.6



第 8 回	18 年	1~6 月	0.0	25.5	53.2	14.9	6.4	0.0	49.5
第 7 回	17 年	7~12 月	0.0	28.9	44.4	22.2	4.5	0.0	49.4
第 6 回	17 年	1~6 月	0.0	14.6	29.3	51.0	5.1	0.0	38.4
第 5 回	16 年	7~12 月	0.0	12.5	27.5	42.5	17.5	0.0	33.8
第 4 回	16 年	1~6 月	0.0	16.7	38.1	33.3	11.9	0.0	39.9
第 3 回	15 年	7~12 月	0.0	12.0	18.0	40.0	30.0	0.0	28.0
第 2 回	15 年	1~6 月	1.6	0.0	16.4	44.3	37.7	0.0	20.9
初回	14 年	7~12 月	0.0	1.2	7.4	37.0	54.4	0.0	13.9

質問3 小山市の景気の先行き(来半期見通し)

見通し対象時期				良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	無回答	DI
今回	令和	4年	1~6月	5.1	53.8	28.2	7.7	2.6	2.6	63.2
前回		3年	7~12月	2.2	43.5	39.1	13.0	2.2	0.0	57.6
前々回		3年	1~6月	0.0	13.6	38.6	34.1	13.6	0.0	38.1
第36回		2年	7~12月	6.5	23.9	28.3	17.4	19.6	4.3	44.9
第35回		2年	1~6月	0.0	15.7	56.9	25.5	0.0	2.0	47.6
第34回		元年	7~12月	2.2	10.9	54.3	28.3	2.2	2.2	45.6
第33回	平成	元年	1~6月	0.0	31.1	57.8	11.1	0.0	0.0	55.0
第32回		30年	7~12月	2.6	15.8	68.4	13.2	0.0	0.0	52.0
第31回		30年	1~6月	0.0	39.5	53.5	7.0	0.0	0.0	58.1
第30回		29年	7~12月	0.0	19.1	63.8	14.9	2.1	0.0	50.0
第29回		29年	1~6月	0.0	24.5	61.2	12.2	2.0	0.0	52.0
第28回		28年	7~12月	1.9	11.1	53.7	29.6	3.7	0.0	44.5
第27回		28年	1~6月	0.0	21.7	60.9	17.4	0.0	0.0	51.1
第26回		27年	7~12月	0.0	30.6	55.1	12.3	2.0	0.0	53.6
第25回		27年	1~6月	0.0	26.1	45.7	21.7	4.3	2.2	48.9
第24回		26年	7~12月	0.0	24.0	46.0	26.0	4.0	0.0	47.5
第23回		26年	1~6月	4.1	28.6	42.9	22.4	2.0	0.0	52.6
第22回		25年	7~12月	1.9	37.0	50.0	7.4	3.7	0.0	56.5
第21回		25年	1~6月	2.0	36.7	42.9	14.3	4.1	0.0	54.6
第20回		24年	7~12月	0.0	20.8	43.8	27.1	8.3	0.0	44.3
第19回		24年	1~6月	0.0	16.4	47.3	27.3	7.3	1.7	43.6
第18回		23年	7~12月	3.8	21.2	38.5	23.1	13.4	0.0	44.7
第17回		23年	1~6月	0.0	6.7	64.4	24.4	4.5	0.0	43.3
第16回		22年	7~12月	2.1	29.2	52.1	6.3	8.3	2.0	52.7
第15回		22年	1~6月	0.0	8.3	37.5	33.3	20.9	0.0	33.3
第14回		21年	7~12月	1.8	17.5	36.8	27.2	14.9	1.8	40.9
第13回		21年	1~6月	0.0	0.0	10.6	12.8	74.5	2.1	8.7
第12回		20年	7~12月	0.0	2.2	13.3	68.9	15.6	0.0	25.5
第11回		20年	1~6月	0.0	8.5	42.6	42.6	4.3	2.0	39.1
第10回		19年	7~12月	1.9	19.2	58.7	20.2	0.0	0.0	50.7
第9回		19年	1~6月	2.1	25.0	58.3	10.4	4.2	0.0	52.6
第8回		18年	7~12月	0.0	31.9	51.1	17.0	0.0	0.0	53.7
第7回		18年	1~6月	2.2	51.1	40.0	6.7	0.0	0.0	62.2
第6回		17年	7~12月	0.0	17.1	48.8	26.8	7.3	0.0	43.9

第5回	17年	1~6月	0.0	9.8	41.5	43.9	4.8	0.0	39.1
第4回	16年	7~12月	0.0	33.3	50.0	11.1	5.6	0.0	52.8
第3回	16年	1~6月	0.0	18.0	32.0	34.0	16.0	0.0	38.0
第2回	15年	7~12月	1.6	3.3	47.5	32.8	14.8	0.0	36.0
初回	15年	1~6月	0.0	8.6	30.9	30.9	27.2	2.4	30.4

質問5 業界の小山市における売上 (売上金額の増減)

				増加した	やや増加	変わらない	やや減少	減少した	無回答	DI
今回	令和	3年	7~12月	0.0	23.1	43.6	20.5	10.3	2.6	45.4
前回		3年	1~6月	0.0	23.9	37.0	30.4	8.7	0.0	44.0
前々回		2年	7~12月	0.0	20.5	31.8	22.7	22.7	2.3	37.8
第36回		2年	1~6月	2.2	8.7	10.9	32.6	45.7	0.0	22.3
第35回		元年	7~12月	0.0	13.7	35.3	43.1	3.9	3.9	40.3
第34回		元年	1~6月	4.3	15.2	39.1	30.4	8.7	2.2	43.8
第33回	平成	30年	7~12月	4.4	22.2	48.9	20.0	2.2	2.2	51.6
第32回		30年	1~6月	0.0	23.7	50.0	23.7	2.6	0.0	48.7
第31回		29年	7~12月	2.3	25.6	51.2	16.3	4.7	0.0	51.2
第30回		29年	1~6月	2.1	14.9	55.3	25.5	2.1	0.0	47.3
第29回		28年	7~12月	0.0	10.2	59.2	28.6	2.0	0.0	45.4
第28回		28年	1~6月	0.0	20.4	44.4	24.1	11.1	0.0	44.5
第27回		27年	7~12月	0.0	23.9	50.0	21.7	4.3	0.0	49.4
第26回		27年	1~6月	2.0	16.3	47.0	26.5	6.1	2.0	45.4
第25回		26年	7~12月	2.2	10.9	47.8	32.6	6.5	0.0	43.3
第24回		26年	1~6月	2.0	22.0	30.0	30.0	14.0	2.0	41.8
第23回		25年	7~12月	8.2	30.6	36.7	16.3	8.2	0.0	53.6
第22回		25年	1~6月	1.9	18.5	37.0	37.0	3.7	1.9	44.4
第21回		24年	7~12月	0.0	10.2	36.7	30.6	20.4	2.1	34.3
第20回		24年	1~6月	2.1	20.8	33.3	29.2	14.6	0.0	42.4
第19回		23年	7~12月	7.3	27.3	18.2	29.1	16.3	1.8	45.0
第18回		23年	1~6月	0.0	3.8	17.3	46.2	30.8	1.9	23.5
第17回		22年	7~12月	4.4	20.0	42.2	24.4	9.0	0.0	46.6
第16回		22年	1~6月	2.1	20.8	33.3	27.1	14.6	2.1	42.0
第15回		21年	7~12月	2.1	4.2	29.2	39.6	24.9	0.0	29.8
第14回		21年	1~6月	1.8	3.5	10.5	49.1	33.3	1.8	22.4
第13回		20年	7~12月	0.0	0.0	14.9	42.6	38.2	4.3	18.9
第12回		20年	1~6月	0.0	6.7	26.7	46.7	19.9	0.0	30.1
第11回		19年	7~12月	0.0	6.4	40.4	40.4	12.8	0.0	35.1
第10回		19年	1~6月	1.9	17.3	36.5	36.5	3.9	3.9	43.9
第9回		18年	7~12月	4.2	18.8	41.7	25.0	8.2	2.1	46.4
第8回		18年	1~6月	0.0	34.0	46.8	14.9	4.3	0.0	52.6
第7回		17年	7~12月	2.2	40.0	28.9	20.0	6.7	2.2	52.8
第6回		17年	1~6月	0.0	19.5	31.7	41.5	7.3	0.0	41.5

第5回	16年	7~12月	2.5	15.0	35.0	30.0	17.5	0.0	38.8
第4回	16年	1~6月	2.8	19.4	30.6	38.9	8.3	0.0	42.4
第3回	15年	7~12月	4.0	14.0	28.0	38.0	14.0	2.0	38.8
第2回	15年	1~6月	3.4	11.9	30.5	39.0	15.3	0.0	37.3
初回	14年	7~12月	2.5	8.6	21.0	28.4	37.0	2.5	27.2

質問 7 業界の小山市の売上高見通し(来半期の見通し)

見通し対象時期				増加した	やや増加	変わらない	やや減少	減少した	無回答	DI
今回	令和	4年	1~6月	2.6	43.6	35.9	15.4	2.6	0.0	57.1
前回		3年	7~12月	0.0	34.8	43.5	15.2	4.3	2.2	52.8
前々回		3年	1~6月	0.0	15.9	36.4	29.5	15.9	2.3	38.4
第36回		2年	7~12月	2.2	17.4	28.3	17.4	30.4	4.3	35.2
第35回		2年	1~6月	0.0	13.7	61.8	18.6	0.0	5.9	48.7
第34回		元年	7~12月	2.2	21.7	38.0	29.3	4.3	4.3	46.8
第33回		元年	1~6月	2.2	24.4	57.8	15.6	0.0	0.0	53.3
第32回	平成	30年	7~12月	5.3	15.8	63.2	15.8	0.0	0.0	52.7
第31回		30年	1~6月	0.0	30.2	53.5	14.0	2.3	0.0	52.9
第30回		29年	7~12月	0.0	10.6	66.0	19.1	4.3	0.0	45.7
第29回		29年	1~6月	0.0	18.4	61.2	18.4	2.0	0.0	49.0
第28回		28年	7~12月	5.6	22.2	44.4	22.2	5.6	0.0	50.0
第27回		28年	1~6月	0.0	17.4	50.0	28.3	2.2	0.0	45.1
第26回		27年	7~12月	0.0	18.4	55.1	24.5	2.0	0.0	47.5
第25回		27年	1~6月	0.0	23.9	43.5	23.9	6.5	2.2	47.4
第24回		26年	7~12月	2.0	18.0	44.0	28.0	6.0	2.0	45.4
第23回		26年	1~6月	2.0	26.5	44.9	16.3	10.2	0.0	48.4
第22回		25年	7~12月	1.9	33.3	48.1	9.3	5.5	1.9	54.3
第21回		25年	1~6月	2.0	32.7	34.7	18.4	10.2	2.0	49.5
第20回		24年	7~12月	0.0	16.7	39.6	27.1	14.5	2.1	39.9
第19回		24年	1~6月	0.0	18.2	50.9	23.6	7.3	0.0	45.0
第18回		23年	7~12月	3.8	13.5	40.4	28.8	11.6	1.9	42.1
第17回		23年	1~6月	4.4	15.6	57.8	17.8	4.4	0.0	49.5
第16回		22年	7~12月	0.0	27.1	47.9	10.4	10.4	4.2	48.9
第15回		22年	1~6月	0.0	10.4	39.6	31.3	18.7	0.0	35.4
第14回		21年	7~12月	1.8	17.5	31.6	35.1	12.2	1.8	40.2
第13回		21年	1~6月	0.0	2.1	14.9	19.1	59.6	4.3	14.4
第12回		20年	7~12月	0.0	4.4	24.4	53.3	17.9	0.0	28.8
第11回		20年	1~6月	0.0	10.6	44.7	38.3	6.4	0.0	39.9
第10回		19年	7~12月	1.9	23.1	57.7	13.5	0.0	3.8	53.5
第9回		19年	1~6月	2.1	29.2	39.6	16.7	6.2	6.2	51.2
第8回		18年	7~12月	2.1	21.3	59.6	10.6	4.3	2.1	51.6
第7回		18年	1~6月	0.0	35.6	42.2	13.3	4.5	4.4	53.5
第6回		17年	7~12月	0.0	22.0	51.2	26.8	0.0	0.0	48.8

第5回	17年	1~6月	2.5	17.5	27.5	40.0	10.0	2.5	40.4
第4回	16年	7~12月	0.0	19.4	58.3	13.9	2.8	5.6	50.0
第3回	16年	1~6月	2.0	18.0	34.0	30.0	12.0	4.0	41.7
第2回	15年	7~12月	0.0	10.0	43.3	31.7	15.0	0.0	37.1
初回	15年	1~6月	0.0	8.6	30.9	30.9	27.2	2.4	30.4

質問9 来半期の販売価格見通し

見通し対象時期				上昇する	やや上昇する	変わらない	やや低下する	低下する	無回答	DI
今回	令和	4年	1~6月	2.6	38.5	48.7	7.7	0.0	2.6	59.2
前回		3年	7~12月	4.3	15.2	58.7	15.2	4.3	2.2	50.0
前々回		3年	1~6月	2.3	6.8	59.1	22.7	6.8	2.3	43.6
第36回		2年	7~12月	0.0	6.5	56.5	19.6	17.4	0.0	38.0
第35回		2年	1~6月	0.0	19.6	55.9	18.6	0.0	5.9	50.3
第34回		元年	7~12月	2.2	17.4	52.2	23.9	0.0	4.3	49.5
第33回		元年	1~6月	0.0	13.3	71.1	13.3	13.3	0.0	48.9
第32回	平成	30年	7~12月	0.0	10.5	73.7	13.2	0.0	2.6	49.3
第31回		30年	1~6月	0.0	18.6	69.8	11.6	0.0	0.0	51.8
第30回		29年	7~12月	14.9	23.4	57.4	4.3	0.0	0.0	62.2
第29回		29年	1~6月	0.0	21.3	61.7	10.6	2.1	4.3	51.7
第28回		28年	7~12月	0.0	9.3	64.8	18.5	3.7	3.7	45.7
第27回		28年	1~6月	2.2	13.0	63.0	19.6	2.2	0.0	48.4
第26回		27年	7~12月	0.0	18.4	65.3	14.3	0.0	2.0	51.0
第25回		27年	1~6月	0.0	22.9	58.3	12.5	4.2	2.1	50.5
第24回		26年	7~12月	2.0	20.0	62.0	12.0	2.0	2.0	52.0
第23回		26年	1~6月	4.1	22.4	47.0	20.4	4.1	2.0	50.5
第22回		25年	7~12月	0.0	25.9	51.9	14.8	1.8	5.6	52.0
第21回		25年	1~6月	2.0	16.3	51.0	22.5	4.1	4.1	46.3
第20回		24年	7~12月	0.0	10.4	47.9	35.4	6.3	0.0	40.6
第19回		24年	1~6月	0.0	9.1	50.9	30.9	5.5	3.6	41.5
第18回		23年	7~12月	0.0	7.7	46.2	36.5	5.8	3.8	39.5
第17回		23年	1~6月	0.0	11.1	51.1	35.6	2.2	0.0	42.8
第16回		22年	7~12月	0.0	12.5	54.2	31.3	2.0	0.0	44.3
第15回		22年	1~6月	0.0	4.2	39.6	41.7	14.5	0.0	33.4
第14回		21年	7~12月	1.8	10.5	43.9	29.8	10.5	3.5	40.5
第13回		21年	1~6月	0.0	4.3	23.4	40.4	29.8	2.1	25.6
第12回		20年	7~12月	4.4	17.8	25.6	43.3	6.7	2.2	41.4
第11回		20年	1~6月	2.1	16.0	43.6	29.8	4.2	4.3	45.3
第10回		19年	7~12月	1.9	17.3	50.0	26.9	2.0	1.9	47.5
第9回		19年	1~6月	2.1	18.8	54.2	16.7	4.1	4.1	49.6
第8回		18年	7~12月	0.0	25.5	46.8	21.3	2.1	4.3	50.0
第7回		18年	1~6月	0.0	26.7	46.7	20.0	4.4	2.2	49.5
第6回		17年	7~12月	0.0	14.6	48.8	29.3	0.0	7.3	46.0



第5回	17年	1~6月	0.0	8.1	45.9	40.5	5.5	0.0	39.2
第4回	16年	7~12月	0.0	8.3	61.1	22.2	5.6	2.8	43.5
第3回	16年	1~6月	0.0	12.0	38.0	40.0	6.0	4.0	38.8
第2回	15年	7~12月	0.0	8.6	32.8	48.3	10.3	0.0	34.9

(注) 販売価格見通しは第2回から実施

質問 10 来半期の雇用見通し

見通し対象時期				不足する	やや不足	横ばい	やや過剰	過剰	無回答	DI
今回	令和	4年	1~6月	7.7	15.4	76.9	0.0	0.0	0.0	57.7
前回		3年	7~12月	2.2	15.2	67.4	8.7	2.2	4.3	51.7
前々回		3年	1~6月	2.3	13.6	63.6	11.4	4.5	4.5	49.4
第36回		2年	7~12月	0.0	6.5	65.2	19.6	8.7	0.0	42.4
第35回		2年	1~6月	9.8	21.6	56.9	5.9	0.0	5.9	59.4
第34回		元年	7~12月	4.3	23.9	63.0	4.3	0.0	4.3	57.3
第33回		元年	1~6月	13.3	35.6	46.7	0.0	2.2	2.2	64.8
第32回	平成	30年	7~12月	2.6	21.1	65.8	7.9	0.0	2.6	54.7
第31回		30年	1~6月	7.0	30.2	60.5	2.3	0.0	0.0	60.5
第30回		29年	7~12月	14.9	23.4	57.4	4.3	0.0	0.0	62.2
第29回		29年	1~6月	10.6	34.0	53.2	2.1	0.0	0.0	65.7
第28回		28年	7~12月	3.7	18.5	70.4	1.9	1.9	3.7	55.3
第27回		28年	1~6月	0.0	26.2	64.3	7.1	2.4	0.0	53.6
第26回		27年	7~12月	6.1	22.5	65.3	4.1	0.0	2.0	57.8
第25回		27年	1~6月	8.3	33.3	54.2	2.1	2.1	0.0	62.3
第24回		26年	7~12月	0.0	28.6	67.4	2.0	2.0	0.0	55.7
第23回		26年	1~6月	2.0	26.5	59.2	8.2	0.0	4.1	55.8
第22回		25年	7~12月	0.0	11.1	77.8	7.4	0.0	3.7	51.0
第21回		25年	1~6月	0.0	14.3	67.3	14.3	2.1	2.0	48.9
第20回		24年	7~12月	0.0	6.3	62.5	20.8	6.3	4.1	43.0
第19回		24年	1~6月	1.8	18.2	63.6	9.1	1.8	5.5	52.4
第18回		23年	7~12月	0.0	9.6	61.5	23.1	2.0	3.8	45.5
第17回		23年	1~6月	0.0	6.7	64.4	26.7	2.2	0.0	43.9
第16回		22年	7~12月	2.1	8.3	66.7	12.5	6.2	4.2	46.8
第15回		22年	1~6月	2.1	2.1	54.2	35.4	4.1	2.1	40.5
第14回		21年	7~12月	0.0	7.0	56.1	24.6	3.5	8.8	43.3
第13回		21年	1~6月	4.3	2.1	34.0	36.2	14.9	8.5	34.9
第12回		20年	7~12月	0.0	11.1	80.0	8.9	0.0	0.0	50.6
第11回		20年	1~6月	2.1	17.0	70.2	6.4	0.0	4.3	53.9
第10回		19年	7~12月	3.8	26.9	63.5	1.9	0.0	3.9	58.4
第9回		19年	1~6月	8.3	22.9	52.1	8.3	0.0	8.4	58.5
第8回		18年	7~12月	2.1	21.3	53.2	14.9	2.1	6.4	51.7
第7回		18年	1~6月	0.0	13.3	73.3	6.7	2.3	4.4	50.5
第6回		17年	7~12月	0.0	22.0	61.0	9.8	0.0	7.2	53.3

第5回	17年	1~6月	5.0	5.0	65.0	20.0	2.5	2.5	47.4
第4回	16年	7~12月	0.0	16.7	72.2	8.3	2.8	0.0	50.7
第3回	16年	1~6月	0.0	8.0	56.0	30.0	4.0	2.0	42.3
第2回	15年	7~12月	0.0	8.8	57.9	28.1	5.2	0.0	42.6

(注) 雇用見通しは第2回から実施

質問 11 資金繰りの状況(前半期との比較)

				改善した	やや改善	どちらともいえない	やや悪化	悪化した	無回答	DI
今回	令和	4年	7～12月	2.6	30.8	46.2	15.4	5.1	0.0	52.6
前回		3年	1～6月	2.2	19.6	56.5	15.2	6.5	0.0	48.9
前々回		2年	7～12月	0.0	18.2	52.3	18.2	9.1	2.3	45.3
第36回		2年	1～6月	8.7	8.7	26.1	39.1	13.0	4.3	39.8
第35回		元年	7～12月	2.0	3.9	74.5	11.8	3.9	3.9	47.0
第34回		元年	1～6月	6.5	8.7	69.6	13.0	0.0	2.2	52.2
第33回	平成	30年	7～12月	2.2	24.4	62.2	11.1	0.0	0.0	54.4
第32回		30年	1～6月	2.6	15.8	68.4	10.5	0.0	2.6	52.6
第31回		29年	7～12月	4.7	14.0	62.8	18.6	0.0	0.0	51.3
第30回		29年	1～6月	4.3	17.0	70.2	8.5	0.0	0.0	54.3
第29回		28年	7～12月	2.1	17.0	68.1	12.8	0.0	0.0	53.1
第28回		28年	1～6月	7.4	9.3	61.1	18.5	1.9	1.9	50.5
第27回		27年	7～12月	4.3	10.9	69.6	13.0	2.0	2.2	51.7
第26回		27年	1～6月	2.0	6.2	71.4	16.4	2.0	2.0	47.4
第25回		26年	7～12月	2.1	10.4	64.6	20.8	0.0	2.1	48.4
第24回		26年	1～6月	4.0	20.0	56.0	18.0	2.0	0.0	51.5
第23回		25年	7～12月	4.1	16.3	59.2	18.4	0.0	2.0	51.6
第22回		25年	1～6月	3.7	22.2	51.9	18.5	0.0	3.7	52.9
第21回		24年	7～12月	6.1	16.3	53.1	14.3	8.2	2.0	49.4
第20回		24年	1～6月	2.1	18.8	58.3	8.3	8.3	4.2	49.5
第19回		23年	7～12月	9.1	7.3	50.0	20.9	7.2	5.5	47.4
第18回		23年	1～6月	0.0	9.6	48.1	26.9	11.6	3.8	39.5
第17回		22年	7～12月	0.0	17.8	55.6	15.6	8.8	2.2	46.1
第16回		22年	1～6月	4.2	8.3	54.2	27.1	6.2	0.0	44.3
第15回		21年	7～12月	2.1	4.2	62.5	16.7	14.5	0.0	40.7
第14回		21年	1～6月	3.5	10.5	33.3	36.8	10.6	5.3	39.3
第13回		20年	7～12月	2.1	6.4	44.7	34.0	12.8	0.0	37.8
第12回		20年	1～6月	0.0	13.3	48.9	35.6	2.2	0.0	0.0
第11回		19年	7～12月	4.3	8.5	46.8	27.7	6.3	6.4	43.8
第10回		19年	1～6月	3.8	17.3	53.8	21.2	0.0	3.9	50.9
第9回		18年	7～12月	6.3	16.7	54.2	12.5	6.1	4.2	51.2
第8回		18年	1～6月	0.0	21.3	59.6	12.8	2.0	4.3	51.2

(注) 資金繰りの状況は第8回から実施